

2019 年度第 3 四半期 決算報告書

プレスリリース



順調な事業成長

融資残高：前年同期比 +5.5%

営業収益は着実な増収

営業収益：前年同期比 +5.3%

(連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+4.0%)

3 事業部門全てで正のジョーズ効果を達成

営業費用：前年同期比 +2.0%

(連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+0.4%)

リスク費用は低水準

融資残高の 41bp* 相当

一時項目を除く四半期純利益は増益

(注：2018 年度第 3 四半期に、ファースト・ハワイアン・バンク株 30.3%の売却による譲渡益を計上**)

四半期純利益***：19 億 3800 万ユーロ

(前年同期比 -8.8%の減益、ただし一時項目を除くと同 +3.4%の増益)

普通株式等 TIER 1 比率は引き続き上昇

普通株式等 TIER 1 比率：12.0% (2019 年 6 月末比 +10 bp)

正のジョーズ効果

普通株式等 TIER 1 比率は 12.0%を達成

*リスク費用+貸出金期首残高 (単位：ベースポイント)； ** 譲渡益 2 億 8600 万ユーロ； *** 株主帰属純利益



BNP PARIBAS

The bank
for a changing
world

2019年10月30日にBNPパリバの取締役会が開催され、ジャン・ルミエール会長が議長を務めるなか、当グループの2019年度第3四半期の業績が検討されました。

事業成長および確かなコスト抑制

世界景気が減速する一方、フランスを始めとする欧州経済は依然として成長を維持したなかにおいて、BNPパリバは全ての事業部門で成長を果たしました。欧州中央銀行（ECB）の新たな金融緩和政策による措置は、2019年度第3四半期末に実施されたため、その効果が十分に発揮されるのは2020年にずれ込むとみられます。

グループの営業収益は、当四半期に108億9600万ユーロに上り、前年同期比5.3%の増収となりました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+4.0%）。

事業部門の営業収益は、全ての部門で増収を果たし、前年同期比5.1%増加しました。これを部門別にみると、国内市場部門¹では、リテール・バンキング業務への低金利環境のマイナス影響を、事業成長（とりわけ専門的金融業務）による増収効果が上回ったことから、前年同期比0.5%の増収となりました。国際金融サービス部門では、順調な事業開発を反映して、営業収益は前年同期比5.1%²増加しました。ホールセールバンキング事業（CIB）では、全ての業務部門が増収となったことから、営業収益は前年同期比12.0%増の力強い業績を収めました。

営業費用は、グループ全体で74億2100万ユーロとなり、前年同期と比べて2.0%増加しました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+0.4%）。当四半期の営業費用には以下の一時項目が含まれていました：2020年度事業計画に関わる事業改編費用が1億7800万ユーロ；買収に関わる事業再編費用³が4800万ユーロ；BNLバンカ・コメルシアールおよびアセット・マネジメント部門における追加的な事業適応費用として合計で2億5600万ユーロ（うち、早期退職制度で3000万ユーロ）が計上されました（前年同期は2億6700万ユーロ）。

事業部門全体では、営業費用は前年同期比2.9%増加しました。これを部門別にみると、国内市場部門¹では、リテール・バンキング支店網でコスト削減を果たした（前年同期比0.9%の減少）一方で、専門的金融業務の事業開発費が負担となり、全体では0.1%の微増となりました。国際金融サービス部門の営業費用は、事業成長を支えるために4.0%増加しました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+0.4%）。CIBでは、事業成長を受けて前年同期比4.8%増加しました。

グループの確かなコスト抑制策が奏功し、当四半期に3.3ポイントの正のジョーズ効果が生み出されました（各事業部門で正のジョーズ効果を達成）。2020年度事業計画に沿って実施された費用削減策が効果を発揮したことから、当四半期は1億6600万ユーロの経常的な費用節減を果たしました。また、2017年初に事業改編計画が始動して以来の累計額は17億ユーロに上り、さらに2020年度までの目標額は33億ユーロとなっています。一方、事業改編計画に関わる費用は、公表された目標に沿って推移しており、計画どおり2019年度末に完了する見込みです。

これらを受けて、グループの営業総利益は当四半期に34億7500万ユーロとなり、前年同期から13.0%の増加を果たしました。なお事業部門だけをとると、営業総利益は前年同期比9.5%増加しました。

¹ 国内市場部門のプライベート・バンキングの100%を含む（PEL/CELの影響を除く）

² 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+1.9%

³ 特にRaiffeisen Bank PolskaおよびOpel Bank SAの統合に関わる事業再編費用が影響

リスク費用は当四半期に 8 億 4700 万ユーロとなりましたが、CIB で多額の引当金戻入益が計上されて低水準であった前年同期からは 1 億 6100 万ユーロ増加しました。当四半期のリスク費用は、顧客向け融資残高の 41bp 相当で低水準に留まりました。これにはとりわけ、ローンオリジネーション業務でリスク管理効果が発揮されたことに加え、低金利環境、およびイタリアで引き続き貸付ポートフォリオの質が改善されたことが反映されています。

グループの営業利益は当四半期に 26 億 2800 万ユーロとなり、前年同期比 10.0%の増益を果たしました。なお、事業部門だけをとると、営業利益は当四半期に 6.1%増加しました。

営業外項目は当四半期に 1 億 7700 万ユーロの利益となり、前年同期の 4 億 2700 万ユーロから大幅に減少しました。なお、前年同期には、ファースト・ハイアン・バンクに対する 30.3%の持分を売却したことによる譲渡益 2 億 8600 万ユーロが、一時項目として影響していました。

税引前利益は、当四半期に 28 億 500 万ユーロで（前年同期は 28 億 1600 万ユーロ）、前年同期と比べて 0.4%の微減益でしたが、一時項目を除くと 9.4%の増益となります。

当四半期の法人税は 7 億 6700 万ユーロに上り、前年同期の 5 億 8300 万ユーロから増加しました。なお前年同期は、ファースト・ハイアン・バンク株の譲渡益に適用された長期投資に関わる軽減税率の恩恵を受けていました。

以上から、当四半期の株主帰属純利益は 19 億 3800 万ユーロとなり、前年同期比 8.8%の減益でしたが、一時項目の影響を除くと同 3.4%の増益となります。

2019 年 9 月末現在、普通株式等 Tier 1 比率は 12.0%で、2019 年 6 月末との比較で 10bp 上昇しました。また、レバレッジ比率¹は当四半期に 4.0%となりました。さらに、グループの即時利用可能な余剰資金は 3510 億ユーロに上りましたが、これは短期資金調達との関係で 1 年超の余裕資金があることを意味します。

1 株当たり純資産額は 2019 年 9 月末現在で 78.0 ユーロとなり、2008 年 12 月末からの年平均成長率（CAGR）は 5.1%に相当します。これは当グループが、景気局面を通じて継続的に企業価値を創造する能力を有していることを証明しています。

グループは、2020 年度事業計画の最終段階に向けて積極的にこれを実施するとともに、内部統制およびコンプライアンス体制の強化を継続しています。またグループは、倫理的責任、社会・環境イノベーション、および低炭素経済を推進する重要な取り組みを通じて、社会に好影響を及ぼす意欲的な方針を追求しています。この分野におけるグループの活動は高く評価され、ESG 調査大手の Vigeo Eiris によって A1+の格付けを受けるとともに、グループの CSR 活動の実績は世界で第 4 位にランクインしました。

*
* *

2019 年度第 3 四半期累計期間（1-9 月）において、グループの営業収益は 332 億 6400 万ユーロに上り、前年同期と比べて 2.8%の増収となりました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除いても+2.8%）。

¹ 2014 年 10 月 10 日付けの欧州委員会（EC）委任法令に基づき算定された比率

事業部門の営業収益は、前年同期と比べて 4.0%の増収でした。これを部門別にみると、国内市場部門¹では、低金利環境のマイナス影響を、順調な事業開発（とりわけ専門的金融業務）による増収効果が相殺したことから、前年同期比横ばいとなりました。また国際金融サービス部門では、前年同期比 5.9%の増収となり（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+3.6%）、さらにホールセールバンキング事業（CIB）では、全ての業務部門が増収となったことから、前年同期比 6.3%増加しました。なお、コーポレート・センターの営業収益は、2018 年度第 3 四半期にファースト・ハワイアン・バンクを連結の範囲から除外した²影響で、前年同期と比べて減収となりました。

グループの営業費用は、当第 3 四半期累計期間に 233 億 500 万ユーロで、前年同期比 1.7%増に留まったことから（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+0.6%）、1.1 ポイントの正のジョーズ効果が生み出されました。当第 3 四半期累計期間の営業費用には、一時項目として、事業改編費用、買収に関わる事業再編費用³に加え、BNL バンカ・コメルシアレおよびアセット・マネジメント部門における追加的な事業適応費用（早期退職制度）が合計で 7 億 9700 万ユーロ含まれていました（前年同期は 7 億 5300 万ユーロ）。

事業部門全体の営業費用は、当第 3 四半期累計期間に前年同期比 2.6%増加しました。これを部門別にみると、国内市場部門⁴では、リテール・バンキング支店網で微減（-0.7%）となった一方、専門的金融業務では事業開発を受けて増加したことから、全体的に横ばいでした。国際金融サービス部門では、事業成長に加え連結範囲の変更および為替レート変動による影響を受けて、前年同期比 4.9%増加しました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+1.4%）。また CIB の営業費用は、事業成長を反映して前年同期比 3.0%増加しました。なお、コーポレート・センターの営業費用は、ファースト・ハワイアン・バンクを 2018 年度第 3 四半期⁵に連結の範囲から除外した影響で、前年同期と比べて減少しました。

当第 3 四半期累計期間に正のジョーズ効果が生み出されましたが、これには 2020 年度事業計画に沿って実施された費用節減策が奏功しました（当第 3 四半期累計期間は 5 億 3400 万ユーロの費用節減を果たし、これに対し 2017 年初に同計画が始動して以来の累計額は 17 億ユーロ）。

これらを受けて、グループの当第 3 四半期累計期間の営業総利益は 99 億 5900 万ユーロに上り、前年同期比 5.4%増加しました。なお事業部門だけをとると、営業総利益は前年同期比 6.9%の増加を果たしました。

リスク費用は当第 3 四半期累計期間に 22 億 3700 万ユーロとなり、以下の要因から前年同期と比べて 3 億 6900 万ユーロ増加しました：当第 3 四半期累計期間に融資残高が増加した一方、前年同期には CIB およびパーソナル・ファイナンスで引当金戻入益が計上されていました。当第 3 四半期累計期間のリスク費用は、顧客向け融資残高の 36bp 相当となり低水準に留まりました。これにはとりわけ、ローンオリジネーション業務でリスク管理効果が発揮されたことに加え、低金利環境、およびイタリアで引き続き貸付ポートフォリオの質が改善されたことが反映されています。

グループの営業利益は当第 3 四半期累計期間に 77 億 2200 万ユーロとなり（前年同期は 75 億 8300 万ユーロ）、前年同期と比べて 1.8%増加しました。なお、事業部門だけをとると 3.6%の増益となります。

営業外項目は、当第 3 四半期累計期間に 11 億 4300 万ユーロの利益となりました（前年同期は 9 億 4200 万ユーロの利益）。当第 3 四半期累計期間には、一時項目として、インドの SBI Life 株の 16.8%売却による譲渡益および残部の連結範囲からの除外による影響（+14 億 5000 万ユーロ）に加え、のれんの減損損失（-8 億 1800 万ユーロ、特にバンクウエ

¹ 国内市場部門のプライベート・バンキングの 100%を含む（PEL/CEL の影響を除く）

² 2018 年 8 月 1 日をもってファースト・ハワイアン・バンクを連結子会社から除外

³ 特に Raiffeisen Bank Polska および Opel Bank SA の統合に関わる事業再編費用が影響

⁴ 国内市場部門のプライベート・バンキングの 100%を含む（PEL/CEL の影響を除く）

⁵ 2018 年 8 月 1 日をもってファースト・ハワイアン・バンクを連結子会社から除外

ストに関わるもの) がとりわけ影響しました。これに対し、前年同期の営業外項目には、建物の売却による譲渡益 1 億 100 万ユーロに加え、ファースト・ハウイアン・バンク株の 30.3%売却による譲渡益 2 億 8600 万ユーロが含まれていました。

税引前利益は当第 3 四半期累計期間に 88 億 6500 万ユーロに上り（前年同期は 85 億 2500 万ユーロ）、前年同期と比べて 4.0%増加しました。

当第 3 四半期累計期間の法人税は平均で 24.2%となりましたが、これにはとりわけ SBI Life 株の譲渡益に適用された長期投資に関わる軽減税率が影響しました。

以上から、当第 3 四半期累計期間の株主帰属純利益は 63 億 2400 万ユーロに上り、前年同期比 3.9%の増益となりました（一時項目を除くと+1.1%）。

当第 3 四半期累計期間の有形自己資本利益率¹は年率換算後で 10.3%となり、グループの全体的な好業績を反映しています。

¹ 当第 3 四半期累計期間の純利益に基づき算定

リテール・バンキング事業およびサービス事業

国内市場部門

国内市場部門は、当四半期も積極的な事業展開を推し進めました。融資残高は前年同期比 4.1%増加しましたが、国内リテール・バンキング業務および専門的金融業務（アルバル、リーシング・ソリューションズ）の両方で貸出が伸びました。預金残高は全ての国において伸びを示し、前年同期比 8.0%増加しました。プライベート・バンキング業務では、旺盛な資金純流入がありました（16 億ユーロ）。

国内市場部門は、個人顧客によるモバイル利用を加速させた結果、アプリへの接続回数が 7800 万回に上っており、これは 2018 年度第 3 四半期から 35%の増加を意味します。当部門は、住宅ローンの申請手続きを、エンドツーエンドのデジタルアプリケーションを通してデジタル化および簡素化し、フランス、ベルギーおよびイタリアにおいてかかるサービスを提供しています。また、より高い自主性を求めるプライベート・バンキングの顧客の新たな期待に応えるために、完全なりモト操作の革新的モデルである e-Private を導入しました。当部門は、プライベート・バンキング部門の専門的能力およびサービスをデジタル化するとともに、新たなオンラインの金融アドバイス・ソリューション（フランスにおいて責任投資に関する myImpact）や、富裕層向け資産運用アドバイス・ソリューション（ベルギーで PaxFamilia）を通して、よりプロアクティブな助言を提供しています。国内市場部門は、サービスを新たな銀行の業務形態に対応させるべく継続して取り組んでいます。その意味で、モバイル決済ソリューションである LyfPay の導入で成功を収め、既にフランスで 240 万回を超えるダウンロード数を記録しています。LyfPay を採用する販売網は大幅に拡大しており、当四半期は新たに 1,200 店舗が加わりましたが、これには Franprix や Etam Group などの新たな提携関係が貢献しました。一方 Nickel に関しては、口座開設数が今や 140 万回を超えており、これは 2018 年 9 月末との比較で 35%の増加を意味します。Nickel は引き続き販売網を拡充した結果、Nickel を取り扱う販売店は 2018 年 9 月末から 49%増加して、現在は 5,745 軒に上っています。

国内市場部門は、カスタマーサービスの向上と費用節減を目指して、国内リテール・バンキング支店網の合理化および最適化を実施中です（フランス、ベルギーおよびイタリアにおいて、2016 年末以来 356 支店を閉鎖）。当部門はまた、主要なカスタマージャーニーをエンドツーエンドでデジタル化するとともに、プロセスを自動化することによって、業務モデルの変革を継続しました。

営業収益¹は、当四半期に 38 億 9200 万ユーロに上り、前年同期比 0.5%の増収となりました。専門的金融業務の伸びや全体的な事業成長による増収効果を、低金利環境がリテール・バンキング業務に及ぼすマイナス影響でほぼ打ち消した格好となりました。

営業費用¹は、当四半期に 26 億 700 万ユーロで前年同期比 0.1%の微増となったことから、正のジョーズ効果（0.4 ポイント）が生み出されました。営業費用はリテール・バンキング業務で減少したものの（前年同期比-0.9%²）、専門的金融業務では事業開発を受けて増加しました（それでも正のジョーズ効果を達成）。

営業総利益¹は、当四半期に 12 億 8500 万ユーロに上り、前年同期比 1.3%増加しました。

リスク費用は、当四半期に 2 億 4500 万ユーロの低水準となり、前年同期から 500 万ユーロ減少しました。なお、BNL bc では引き続きリスク費用が減少しました。

¹ フランス（PEL/CEL の影響を除く）、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクの国内プライベート・バンキングの 100%を含む

² FRB、BNL bc および BRB

以上から、国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、国内市場部門の税引前利益¹は当四半期に 9 億 7500 万ユーロとなり、前年同期比 2.0%の増益でした。

2019 年度第 3 四半期累計期間（1-9 月）において、営業収益²は 117 億 7800 万ユーロとなり、前年同期からほぼ横ばいでした。その背景には、専門的金融業務の順調な伸びに加え全体的な事業成長による増収効果の一方で、低金利環境がこれをほぼ打ち消したことがありました。営業費用²は、当第 3 四半期累計期間に 81 億 700 万ユーロとなり前年同期から横ばいでしたが、リテール・バンキング業務で費用が減少（-0.7%²）した一方、専門的金融業務では事業開発を受けて増加しました（それでも各業務部門で正のジョーズ効果を達成）。営業総利益³は、当第 3 四半期累計期間に 36 億 7100 万ユーロとなり、前年同期比 0.2%の微減となりました。リスク費用は低水準に留まったものの、引当金戻入益の影響で極めて低水準であった前年同期から 4200 万ユーロ増加しました。また、BNL bc では、リスク費用は引き続き減少傾向をたどりまし。以上から、国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、国内市場部門の税引前利益⁴は当第 3 四半期累計期間に 27 億 500 万ユーロとなり、前年同期から 1.5%の若干の減益でした。

フランス国内リテール・バンキング（FRB）

フランス国内リテール・バンキング（FRB）は、フランスの経済成長を背景に積極的な事業活動を継続しました。融資残高は、とりわけ法人向けの貸付が増えたことから、前年同期比 5.9%増加しました。預金残高は、当座預金の高い伸びが牽引して前年同期比 10.6%増加しました。BNP パリバ・カードیفと Matmut の業務提携（Cardif IARD）の一環として、2018 年 5 月に発売された新たな損害保険は継続して順調に伸びており、2019 年 9 月末現在で成約件数は 21 万件に達しています。

FRB は引き続きデジタルサービスの開発で成果を上げた結果、Hello bank!の顧客数は 48 万 5 千人に上りましたが、これは 2018 年 9 月末との比較で 20%の増加を意味します。また、FRB のモバイルサービスのアクティブユーザー数は 29%増加し、ユーザー一人当たりの月間接続回数は平均で 14 回となっています。

営業収益⁵は当四半期に 15 億 6800 万ユーロとなり、前年同期比 0.2%の減収でした。純利息収入⁵は、融資残高の増加による増収効果を、低金利のマイナス影響がさらに侵食したにも関わらず、前年同期比 0.6%増加しました。手数料収入⁵は、年初に実施された、経済的に困窮した顧客に対する手数料引き下げが特に影響し、前年同期比 1.3%減少しました。

営業費用⁵は、当四半期に 11 億 6300 万ユーロとなり、前年同期比 0.5%減少しました。これには事業改編計画の効果（国内支店網の最適化および経営体制の合理化）が発揮されました。その結果、当四半期に 0.3 ポイントの正のジョーズ効果が生み出されました。

これらを受けて、当四半期の営業総利益⁵は 4 億 500 万ユーロとなり、前年同期と比べて 0.5%増加しました。

リスク費用⁵は、当四半期に 7500 万ユーロで前年同期から 1500 万ユーロ減少した結果、顧客向け融資残高の 16bp 相当で依然として低水準に留まりました。

¹ PEL/CEL の影響を除く：2019 年度第 3 四半期は -1000 万ユーロ；2018 年度第 3 四半期は+400 万ユーロ

² FRB、BNL bc および BRB

³ フランス（PEL/CEL の影響を除く）、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクの国内プライベート・バンキングの 100%を含む

⁴ PEL/CEL の影響を除く：2019 年度第 3 四半期累計期間は+2100 万ユーロ；2018 年度第 3 四半期累計期間は+500 万ユーロ

⁵ フランス国内プライベート・バンキングの 100%を含む（PEL/CEL の影響を除く）

以上から、フランス国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、FRB の税引前利益¹は当四半期に 2 億 9000 万ユーロとなり、前年同期比 5.2%の増益を果たしました。

2019 年度第 3 四半期累計期間（1-9 月）において、営業収益²は 47 億 5900 万ユーロとなり、前年同期から横ばいでした。純利息収入²は、融資残高の増加による増収効果を低金利の影響が一部打ち消したものの、前年同期比 1.6%増加しました。手数料収入²は、経済的に困窮した顧客に対する手数料引き下げが特に影響し、前年同期比 1.9%減少しました。営業費用²は、当第 3 四半期累計期間に 34 億 5000 万ユーロとなり、前年同期比 0.3%減少しました。これには事業改編計画の実施による効果が反映されており、その結果 0.3 ポイントの正のジョーズ効果が生み出されました。これらを受けて、営業総利益²は 13 億 900 万ユーロとなり、前年同期と比べて 0.9%増加しました。リスク費用²は、特に低水準であった前年同期から 2800 万ユーロ増加して、当第 3 四半期累計期間は 2 億 3100 万ユーロとなり、顧客向け融資残高の 16bp 相当の低水準に留まりました。

以上から、フランス国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、FRB の税引前利益³は当第 3 四半期累計期間に 9 億 6900 万ユーロとなり、前年同期比 1.0%の減益でした。

BNL バンカ・コメルシアレ（BNL bc）

BNL バンカ・コメルシアレ（BNL bc）は、景気が低迷するなかにおいて活発な営業活動を展開しました。融資残高は、不良債権の証券化による影響を除くと、前年同期比 0.5%の減少となりました⁴。それでも、BNL bc は法人セグメントで当四半期も順調に市場シェアを伸ばした結果、過去 3 年間でシェアが 0.9 ポイント拡大して 6.0%⁵へと高まりました。預金残高は、個人顧客の当座預金が特に高い伸びを果たしたことから、前年同期比 8.1%増加しました。オフバランス貯蓄商品は、生命保険が牽引役となり、2018 年 9 月末と比べて 4.5%増加しました。

BNL bc はまた、新たなデジタルサービスの利用法の開発を継続した結果、Telepass（イタリアで有料道路の電子料金收受システムを運営する会社）およびアルバルとの協力で、中小企業（SME）および個人顧客向けに新たなサービスを成功裡に導入しました。かかるサービスは、銀行口座、通行料金支払い、カーレンタルなどに加え、モビリティに関わる様々なサービスを組み合わせることを可能にします。同サービスは既に 5 万 4 千の顧客を有していますが、そのうち 78%を新規顧客が占めています。

営業収益⁶は、当四半期に前年同期比 0.5%増加して 6 億 6300 万ユーロとなりました。純利息収入⁵は、長引く低金利環境の影響、およびより優良なリスクプロファイルを伴う顧客へのシフトから、当四半期は 0.7%減少しました。手数料収入⁵は、銀行手数料の増加（とりわけ法人顧客のフロー業務⁷）および金融手数料の増加（オフバランス貯蓄商品の伸びが貢献）を受けて、前年同期比 2.4%の増収となりました。

¹ PEL/CEL の影響を除く：2019 年度第 3 四半期は-1000 万ユーロ；2018 年度第 3 四半期は+400 万ユーロ

² フランス国内プライベート・バンキングの 100%を含む（PEL/CEL の影響を除く）

³ PEL/CEL の影響を除く：2019 年度第 3 四半期累計期間は+2100 万ユーロ；2018 年度第 3 四半期累計期間は+500 万ユーロ

⁴ 不良債権の証券化による影響を含むと -2.9%

⁵ 出所：イタリア銀行協会

⁶ イタリア国内プライベート・バンキングの 100%を含む

⁷ キャッシュマネジメント業務およびトレードファイナンス業務

営業費用¹は、当四半期に4億4600万ユーロとなり、低水準であった前年同期から1.7%増加しました。BNL bcは、低迷する経済・市場環境や低金利環境に費用構造をより良く適応させるために、新たなコスト節減策を実施するとともに、早期退職制度を導入しました。これは、年金受給年齢の引き下げに関わる、「クオータ100」(Quota 100)と呼ばれる新たな年金制度改革を活用するものです。

これらを受けて、営業総利益¹は当四半期に2億1700万ユーロとなり、前年同期比1.9%減少しました。

リスク費用¹は、前年同期から2200万ユーロ減少して当四半期は1億900万ユーロとなったことから、引き続き減少傾向が確認されました。また、当四半期のリスク費用は、顧客向け融資残高の56bp相当でした。

以上から、イタリア国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務(国際金融サービス部門)へ配分した後、BNL bcの税引前利益は当四半期に9800万ユーロに上り、前年同期比23.7%の増益を果たしました。

2019年度第3四半期累計期間(1-9月)において、営業収益¹は前年同期比2.3%減少して20億2300万ユーロとなりました。純利息収入¹は、長引く低金利環境の影響、およびより優良なリスクプロファイルを伴う顧客へのシフトから、当第3四半期累計期間に3.0%減少しました。手数料収入¹は、不利な市場環境に加え、2019年初に一時項目の影響を受けたことから、前年同期比1.2%減少しました。営業費用¹は、事業改編計画が効果を発揮し、当第3四半期累計期間は13億4900万ユーロで前年同期比0.6%減少しました。これらを受けて、営業総利益¹は6億7300万ユーロとなり、前年同期から5.6%減少しました。リスク費用¹は、前年同期から4700万ユーロ減少して3億8100万ユーロに留まったことから、引き続き減少傾向が確認されました。また、当第3四半期累計期間のリスク費用は、顧客向け融資残高の65bp相当でした。以上から、イタリア国内プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務(国際金融サービス部門)へ配分した後、BNL bcの税引前利益は当第3四半期累計期間に2億6100万ユーロに上り、前年同期比4.1%の増益でした。

¹ イタリア国内プライベート・バンキングの100%を含む

ベルギー国内リテール・バンキング (BRB)

ベルギー国内リテール・バンキング (BRB) は、当四半期も積極的な営業活動を継続しました。融資残高は、法人向け貸出の高い伸びに加え住宅ローンも増えたことから、前年同期比 4.3%の増加となりました。預金残高は、とりわけ当座預金が伸びたことから、前年同期比 5.7%増加しました。

BRB は、引き続きデジタルサービスの開発およびカスタマーエクスペリエンスの向上で成果を上げました。BRB は消費者ローンの申請をオンラインで可能にするために、新たな機能を Easy Banking に追加しました。その結果、2019 年 8 月末現在で、ダイレクト・デジタルセールスが既に全体の 15% 近くを占めるに至りました。また法人顧客向けアプリである Easy Banking Business は、顧客の半数以上がアクティブユーザー¹となっていることが示すように、成功を収めています。

BRB の営業収益²は、当四半期に前年同期比 3.8%減少して 8 億 5300 万ユーロとなりました。純利息収入²は、低金利環境の影響で前年同期比 4.8%減少しました。手数料収入²は、金融手数料の落ち込みを、好調な貸出を背景に伸びた銀行手数料が一部補ったものの、前年同期比 0.9%減少しました。

BRB は、低金利環境の影響にコスト構造を適応させました。営業費用²は、事業改編計画が著しい効果を発揮して当四半期に 5 億 4100 万ユーロとなり、前年同期比 3.9%の減少を果しました。2018 年 9 月末以来、BRB は 78 の支店を閉鎖していますが、2021 年度までにさらに 216 支店を閉鎖する予定です。

営業総利益²は当四半期に 3 億 1200 万ユーロとなり、前年同期と比べて 3.7%減少しました。

当四半期のリスク費用²は 2000 万ユーロとなりましたが、これに対し前年同期には純額で 400 万ユーロの引当金戻入益が計上されました。当四半期のリスク費用は、顧客向け融資残高の 7bp 相当で、極めて低い水準でした。

以上から、ベルギー国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、BRB の税引前利益は当四半期に 2 億 8100 万ユーロとなり、前年同期と比べて 11.5%の減益でした。

2019 年度第 3 四半期累計期間（1-9 月）において、営業収益²は前年同期比 3.4%減少して 26 億 4600 万ユーロとなりました。純利息収入²は、低金利環境のマイナス影響を、融資残高の増加による増収効果が一部補ったものの、前年同期比 4.0%減少しました。一方、手数料収入²は、前年同期比 1.6%減少しました。営業費用²は、事業改編計画の効果が発揮され、当第 3 四半期累計期間は 19 億 2000 万ユーロで前年同期から 1.5%減少しました。なお、銀行業務に関わる税金および拠出金増加の影響³を除くと、営業費用の減少幅は 2.5%となります。営業総利益²は、当第 3 四半期累計期間に 7 億 2600 万ユーロで前年同期比 7.9%減少しました（銀行業務に関わる税金および拠出金増加の影響を除くと-4.8%）。リスク費用²は、引当金繰入額が戻入益で相殺された前年同期から 5100 万ユーロ増加しましたが、それでも顧客向け融資残高の 6bp 相当で、極めて低い水準に留まりました。以上から、ベルギー国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、BRB の税引前利益は当第 3 四半期累計期間に 6 億 2700 万ユーロとなり、前年同期と比べて 15.4%の減益でした（銀行業務に関わる税金および拠出金増加の影響を除くと-10.3%）。

¹ 過去 3 か月間に最低でも 1 回の利用

² ベルギー国内プライベート・バンキングの 100%を含む

³ 銀行業務に関わる税金および拠出金：2019 年度第 3 四半期累計期間は 2 億 9600 万ユーロで、前年同期比 1000 万ユーロ増加

その他国内市場部門（アルバル、リーシング・ソリューションズ、個人投資家部門、Nickel、ルクセンブルク国内リテール・バンキング）

国内市場部門の専門的金融業務は、以下のように力強い成長を維持しました。アルバルでは、ファイナンスフリートの契約台数が当四半期に 8.7%¹増加しました。リーシング・ソリューションズでは、ファイナンスリース残高が前年同期比 6.0%¹増加しました。個人投資家部門では、運用資産残高が 2018 年 9 月末の水準から 6.4%増加しました。Nickel では極めて高い成長を維持し、当四半期は新たに 8 万 5 千口座の開設がありました（2019 年 9 月末現在までの累計口座開設数は 140 万口座を超えています）。

ルクセンブルク国内リテール・バンキング（LRB）では、住宅ローンおよび法人向け貸出が順調に伸びたことから、融資残高は前年同期比 9.1%増加しました。預金残高は、特に法人顧客セグメントで要求払い預金が伸びたことから、前年同期と比べて 8.1%増加しました。LRB はまた、住宅ローンの申請手続きを簡素化することによって、カスタマーエクスペリエンスの向上を図りました。

当四半期において、これら 5 つのビジネスユニットからの営業収益²は、全ての業務部門の順調な事業成長を反映して 8 億 700 万ユーロに上り、全体として前年同期比 6.9%の増収となりました。

営業費用²は、事業開発を受けて 4 億 5700 万ユーロとなり、前年同期比 5.0%増加したものの、1.9 ポイントの正のジョーズ効果が生み出されました。

リスク費用²は当四半期に 4100 万ユーロとなり、これに対し前年同期は 3300 万ユーロが計上されました。

以上から、ルクセンブルク国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、これら 5 つのビジネスユニットの税引前利益は当四半期に 3 億 600 万ユーロに上り、前年同期比 8.0%の大幅増益を果たしました。これには積極的な営業活動の成果が反映されています。

2019 年度第 3 四半期累計期間（1-9 月）において、その他国内市場部門合計の営業収益²は、順調な事業成長を受けて 23 億 5000 万ユーロに上り、全体として前年同期比 6.1%の増収となりました。営業費用²は、事業開発を受けて当第 3 四半期累計期間は 13 億 8700 万ユーロとなり、前年同期比 3.8%増加したものの、2.3 ポイントの正のジョーズ効果が生み出されました。リスク費用²は、前年同期から 1000 万ユーロ増加して 1 億 400 万ユーロとなりました。以上から、ルクセンブルク国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、これら 5 つのビジネスユニットの税引前利益は当第 3 四半期累計期間に 8 億 4800 万ユーロに上り、前年同期比 9.4%の急増を果たしました。

*
* *

¹ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

² ルクセンブルク国内プライベート・バンキングの 100%を含む

国際金融サービス部門 (IFS)

国際金融サービス部門 (IFS) では、以下のように活発な営業活動を維持し、成長を持続させました。融資残高は、当四半期に前年同期比 9.3%増加しました (連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+4.5%)。また、当四半期は 35 億ユーロに上る高水準の資金純流入がありました。貯蓄型商品および保険業務では、運用資産残高が 2018 年 9 月末の水準から 4.1%増加して、合計で 1 兆 1100 億ユーロに上りました。

IFS は、全ての業務部門にわたり積極的にデジタル変革を推進するとともに、新たなテクノロジーを取り入れました。その結果、パーソナル・ファイナンスでは、既に 130 万件の契約で電子署名が利用されており、また 2800 万通に上る月次の電子口座取引明細書が顧客に送信されています。IFS は、モバイルサービスへのアクセスを容易にするために、新たなセルフサービスツールの開発で以下のように成果を上げました：ウェルス・マネジメントの顧客の 7 割超が、オンライン・プライベート・バンキング・ソリューションである myWealth に登録しています：パーソナル・ファイナンスでは、顧客が 6200 万件を超える取引をセルフサービスで行っており、これは取引全体の 86%に相当します。IFS はまた、新たなテクノロジーや AI (人工知能) の開発を進めており、既に 300 を超えるロボットが稼働しています (管理、報告、データ処理の自動化など)。

IFS の営業収益は、当四半期に 42 億 4800 万ユーロに上り、前年同期と比べて 5.1%の増収でした。これには、当四半期に為替が有利に働いたこと (米ドルおよびトルコリラの上昇) に加え、Raiffeisen Bank Polska¹の買収に起因する連結範囲の変更が影響していました。なお、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと、当四半期の営業収益は、順調な事業成長を反映して前年同期比 1.9%の増収となります。

営業費用は当四半期に 25 億 4500 万ユーロとなり、前年同期比 4.0%増加しました。なお、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと、営業費用の増加幅は 0.4%に留まります。その背景には、事業成長を支えるための費用増を、コスト削減策の実施でほぼ打ち消したことがあります。以上から、当四半期に 1.1 ポイントの正のジョーズ効果が生み出されました。

これらを受けて、営業総利益は当四半期に 17 億 400 万ユーロに上り、前年同期と比べて 6.8%増加しました (連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+4.2%)。

リスク費用は当四半期に 5 億 1800 万ユーロとなり、前年同期から 3200 万ユーロ増加しました。連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと、1000 万ユーロの増加となります。

以上から、IFS の税引前利益は当四半期に 13 億 500 万ユーロで、前年同期比 6.7%の増益でした (連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+5.7%)。

2019 年度第 3 四半期累計期間 (1-9 月) において、IFS の営業収益は 127 億 9200 万ユーロに上り、前年同期比 5.9%の増収でした。これには、当第 3 四半期累計期間に為替が若干有利に働いたこと (米ドルの上昇をトルコリラの下落がほぼ相殺) に加え、Raiffeisen Bank Polska¹の買収に起因する連結範囲の変更が影響していました。なお、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと、当第 3 四半期累計期間の営業収益は、順調な事業開発を反映して前年同期比 3.6%の増収となります。営業費用は当第 3 四半期累計期間に 77 億 9200 万ユーロとなり、前年同期比 4.9%増加しました (連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+1.4%)。その結果、当第 3 四半期累計期間に 2.2 ポイントの正のジョーズ効果が生み出されました。これらを受けて、当第 3 四半期累計期間の営業総利益は 50 億 100 万ユーロで前年同期比 7.6%増加しました (連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+7.2%)。リスク費

¹ 買収契約は 2018 年 10 月 31 日に調印

用は当第3四半期累計期間に13億3700万ユーロとなり、引当金戻入益の影響で低水準であった前年同期と比べて1億7200万ユーロ増加しました。以上から、IFSの税引前利益は当第3四半期累計期間に40億2500万ユーロに上り、前年同期比3.2%の増益でした（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+5.8%）。これにはIFSの積極的な営業活動の成果が反映されています。

パーソナル・ファイナンス

パーソナル・ファイナンスは、当四半期も事業成長を維持しました。融資残高は、主に新たな提携関係が貢献し、前年同期比 8.0%増加しました。パーソナル・ファイナンスは、当四半期も証券化業務の水準を維持し、総額 28 億ユーロに上る 3 件の取引¹を実行しました。また、フランスの独立系自動車ディーラー大手である BYmyCAR との業務提携を拡充するとともに、ブラジルで Leroy Merlin との提携契約を結びました。一方、セテレム (Cetelem) は、'French People's Preferred Brand'² (フランス国民から選ばれるブランド) として認定され、フランスにおけるセテレム・ブランドの強さが証明されました。イタリアで今年の 4 月に導入されたデジタルバンクの Findomestic は、その高いブランド力と 250 万人の潜在的顧客を背景に、幸先の良いスタートを切りましたが、既に 5 万口座が開設され、活発な取引が行われています。

パーソナル・ファイナンスの営業収益は、当四半期に 14 億 4400 万ユーロに上り、前年同期比 4.1%の増収となりました。これには融資残高の増加、およびより優良なリスクプロファイルを伴う商品へのシフトが反映されています。当四半期の営業収益には、とりわけイタリア、スペインおよびドイツでの順調な事業成長が貢献しました。

営業費用は、当四半期に前年同期比 3.9%増加して 6 億 6400 万ユーロとなりましたが、これには事業開発に加え、事業改編計画の効果が徐々に発現していることが反映されています。その結果、当四半期に 0.3 ポイントの正のジョーズ効果が生み出されました。

これらを受けて、当四半期の営業総利益は 7 億 8100 万ユーロに上り、前年同期と比べて 4.4%増加しました。

リスク費用は、顧客向け融資残高の増加を反映して当四半期は 3 億 6600 万ユーロとなり、前年同期から 2100 万ユーロ増加しました。それでも当四半期のリスク費用は、顧客向け融資残高の 154bp 相当で依然として低い水準でした。

以上から、パーソナル・ファイナンスの税引前利益は当四半期に 4 億 3400 万ユーロとなり、前年同期比 2.4%の増益でした。

2019 年度第 3 四半期累計期間 (1-9 月) において、パーソナル・ファイナンスの営業収益は、前年同期比 4.6%増加して 43 億 1100 万ユーロとなりました。これには融資残高の増加、およびより優良なリスクプロファイルを伴う商品へのシフトが反映されています。営業費用は、当第 3 四半期累計期間に前年同期比 4.9%増加して 21 億 3600 万ユーロとなりましたが、これには事業開発に加え、事業改編計画の効果が徐々に発現していることが反映されています。パーソナル・ファイナンスは、当事業年度に正のジョーズ効果を生み出す目標を確認しました。これらを受けて、当第 3 四半期累計期間の営業総利益は 21 億 7500 万ユーロに上り、前年同期と比べて 4.3%増加しました。リスク費用は、引当金戻入益の影響で特に低水準であった前年同期から 9800 万ユーロ増加して、9 億 8400 万ユーロとなりました。それでもリスク費用は、顧客向け融資残高の 141bp 相当で依然として低い水準でした。以上から、パーソナル・ファイナンスの税引前利益は当第 3 四半期累計期間に 12 億 2800 万ユーロとなり、前年同期比 1.5%の減益でした。

欧州・地中海沿岸諸国部門

欧州・地中海沿岸諸国部門では、当四半期に融資残高が前年同期比 0.2%³減少しました：トルコでの融資残高の減少が顕著でしたが、ポーランドおよびモロッコでは増加しました。一方、預金残高については、とりわけポーランドで預金コストの最

¹ 資産の分割を伴わない

² 出所：フランス国民の代表的なサンプルを対象に、2019 年 8 月に Toluna が実施したサーベイ

³ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

適化を図ったことが影響し、前年同期比 2.6%³ 減少しました。当部門はデジタルバンキングの開発で成果を上げ、顧客数¹ は既に 270 万人に上っています。欧州・地中海沿岸諸国部門はまた、当四半期に、チュニジアの UBCI に対する 39% 持分の売却予定²を公表しました。

欧州・地中海沿岸諸国部門の営業収益³ は、利鞘の改善に加え手数料収入も高水準となったことから、当四半期は 6 億 5700 万ユーロに上り、前年同期比 1.5%⁴ の増収となりました。

営業費用¹ は、当四半期に 4 億 3900 万ユーロで前年同期比 0.2%² の微増に留まりました。これには、ポーランドで買収した Raiffeisen Bank Polska⁵ の統合に関わるコストシナジーが実現したことに加え（2019 年初以来 147 支店を閉鎖）、事業改編計画の効果が全ての地域で現れていることが反映されています。営業費用のこのような推移を受けて、当四半期に 1.3 ポイントの正のジョーズ効果が生み出されました。

リスク費用¹ は、当四半期に 1 億 1200 万ユーロで、前年同期比 9.3%² 減少しました。当四半期のリスク費用は、顧客向け融資残高の 110bp 相当で、穏やかな水準に留まりました。特にトルコのリスク費用が前年同期から安定推移しました。

以上から、トルコのプライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、欧州・地中海沿岸諸国部門の税引前利益は当四半期に 1 億 5000 万ユーロとなりました。前年同期との比較では、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと 15.5% の大幅増益となりました。一方、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含むと、トルコリラの上昇を受けて増益幅は 26.3% へと拡大します。

2019 年度第 3 四半期累計期間（1-9 月）において、欧州・地中海沿岸諸国部門の営業収益¹ は、融資残高の増加および利鞘の改善に加え、手数料収入も高水準となったことから、19 億 9700 万ユーロに上り、前年同期比 5.6%² の増収でした。営業収益は全ての地域で増収を果たしました。営業費用¹ は、13 億 4000 万ユーロで前年同期比 0.4%² 減少しました。これには、ポーランドでコストシナジーが継続的に実現していることに加え、全ての地域で事業改編計画の効果が現れていることが反映されています。その結果、当第 3 四半期累計期間に 6.0 ポイントの大幅な正のジョーズ効果が生み出されました。リスク費用¹ は、トルコでの増加を受けて、低水準であった前年同期から 2800 万ユーロ増加しました²。それでも、リスク費用は顧客向け融資残高の 94bp 相当で、穏やかな水準に留まりました。以上から、トルコのプライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、欧州・地中海沿岸諸国部門の税引前利益は当第 3 四半期累計期間に 5 億 3200 万ユーロに上りました。前年同期との比較では、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと 28.3% の大幅増益となりました。一方、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含むと、増益幅は 4.7% へと縮小します。これにはトルコリラが、当第 3 四半期累計期間に前年同期と比べて大幅下落したことが響きました。

バンクウエスト

バンクウエストは当四半期も活発な営業活動を維持しましたが、低金利で厳しさが増す環境での活動でした。融資残高は、個人および法人顧客向け貸付が穏やかに伸びたことから、前年同期比 2.4%² 増加しました。預金残高は、顧客預金が大

¹ デジタルバンクの顧客、またはデジタルバンキングサービスを最低でも月に 1 回利用する顧客

² 売却契約は 2020 年度に調印の予定

³ トルコのプライベート・バンキングの 100% を含む

⁴ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

⁵ Raiffeisen Bank Polska のコア銀行業務の買収契約は 2018 年 10 月 31 日に調印（ただし、個人向け外貨建て住宅ローンポートフォリオおよびその他の一定の資産を除く）

幅な伸びを示し (+5.0%¹)、全体では前年同期比 4.3%²増加しました。プライベート・バンキング業務の運用資産残高は、2019年9月末現在 153 億米ドルに上り、2018年9月末の水準と比べて 8.1%²増加しました。バンクウエストは CIB との協働を拡大した結果、当年度において既に 46 件の取引を共同で実行しています。また、バンクウエストは引き続きデジタルバンキングを拡充し、当四半期に 16,700 超の口座がオンラインで開設されました（前年同期比 23%の増加）。

営業収益³は、当四半期に 6 億 100 万ユーロとなり、前年同期と比べて 0.9%²の減収でした。純利息収入は、金利低下圧力の続く環境が利鞘を直撃したことから減少した一方で、営業活動の活発化や手数料収入の増加でこれを補うに足りませんでした。

営業費用³は当四半期に大幅に減少しました。当四半期の営業費用は 4 億 3300 万ユーロとなり、前年同期と比べて 4.2%²減少しました。これには人員削減に加え、サポート業務を低コスト地域（アリゾナ州）へ移転させ、さらには一定の職能を CIB と共有化したことが貢献しました。その結果、当四半期に 5.1 ポイントの大幅な正のジョーズ効果が生み出されました。

これらを受けて、営業総利益³は当四半期に 1 億 6800 万ユーロとなり、前年同期比 8.5%²増加しました。

当四半期のリスク費用³は、4300 万ユーロで（前年同期は 3500 万ユーロ）顧客向け融資残高の 32bp 相当となり、依然として低水準に留まりました。

以上から、米国プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、バンクウエストの税引前利益は当四半期に 1 億 1900 万ユーロとなりました。前年同期との比較では、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと 7.4%の増益となりました。一方、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含むと、為替が有利に働いたことから、増益幅は 10.5%へと拡大します。

2019年度第3四半期累計期間（1-9月）において、営業収益³は 17 億 6400 万ユーロとなり、前年同期比 1.9%²の減収でした。純利息収入の落ち込みを、営業活動の活発化や手数料収入の増加でこれを補うに足りませんでした。営業費用³は、事業改編計画の効果を受けて当第3四半期累計期間は 13 億 600 万ユーロとなり、前年同期比 1.7%²減少しました。これらを受けて、営業総利益³は当第3四半期累計期間に 4 億 5800 万ユーロとなり、前年同期と比べて 2.2%²減少しました。リスク費用³は 6400 万ユーロで、前年同期から 1700 万ユーロ増加しました。当第3四半期累計期間のリスク費用は、顧客向け融資残高の 16bp 相当で低水準に留まりました。以上から、米国プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、バンクウエストの税引前利益は当第3四半期累計期間に 3 億 7400 万ユーロとなりました。前年同期との比較では、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと 5.9%の減益となりました。一方、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含むと、為替が有利に働いたことから、0.3%の増益となります。

保険およびウェルス&アセット・マネジメント

保険およびウェルス&アセット・マネジメント部門は、当四半期も事業成長を維持しました。運用資産残高⁴は、2019年9月末現在で 1 兆 1100 億ユーロに上りました。2018年12月末との比較で、運用資産残高は 8.0%増加しましたが、これには主に以下の 4 つの要因が作用していました：(i) 運用パフォーマンス効果、(ii) 資金流入、(iii) 為替変動の影響、(iv) 連結

¹ 財務活動に関わる預金を除く

² 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

³ 米国プライベート・バンキングの 100%を含む

⁴ 分配金を含む

範囲変更の影響。(i) 金融市場の回復を受けて+655 億ユーロ相当の極めて良好なパフォーマンス効果がありました。(ii) 資金純流入は+138 億ユーロに上りました。とりわけ、ウェルス・マネジメントのアジア、ベルギーおよびドイツで旺盛な資金流入がありました；アセット・マネジメントでは、当四半期にマネーマーケットファンドが減少したため、若干の純流出となりました；保険部門では当四半期に純流入となりましたが、ユニットリンク保険がその大きなシェアを占めました。(iii) 為替変動による影響は+83 億ユーロでした。(iv) 連結範囲の変更による影響は-36 億ユーロでしたが、これは SBI Life を連結の範囲から除外したことに起因します。

2019 年 9 月末現在、運用資産残高³の内訳は以下のとおりでした：アセット・マネジメントは 4360 億ユーロ；ウェルス・マネジメントは 3850 億ユーロ；保険部門は 2600 億ユーロ；不動産管理部門は 300 億ユーロ。

保険部門は、当四半期も事業開発を継続しましたが、とりわけ、国際展開する貯蓄型商品および保障保険の販売を伸ばすとともに、Cardif IARD を通してフランス国内リテール・バンキング支店網で販売する損害保険でも成果を上げました。当部門はまた、デジタル変革の実施を継続した結果、フランスで完全にデジタル化された申請手続きを導入しました（Cardif Libertés Emprunteur）。これにより申込みの 9 割方が即時に応答を得られるようになりました。

保険部門の営業収益は、当四半期に 7 億 6100 万ユーロとなり、前年同期と比べて 2.7%増加しましたが、特にイタリア、アジアおよび中南米がその原動力となりました。営業費用は、事業開発を反映して 3 億 7000 万ユーロとなり、前年同期比 5.6%増加しました。以上から、保険部門の税引前利益は当四半期に前年同期比 0.7%増加して、4 億 3200 万ユーロとなりました。

ウェルス & アセット・マネジメント部門では、ウェルス・マネジメント部門が、ザ・アセット・トリプル A・アワードにおいて 'Best Private Bank in Hong Kong'（香港の最優秀プライベート・バンク賞）を授与され、また、プライベート・バンカー・インターナショナル・アワードにおいて 'Outstanding Global Private Bank in Europe'（欧州の傑出したグローバル・プライベート・バンク賞）を授与されたことにより、当部門のグローバル市場における専門的能力が評価されました。一方、アセット・マネジメント部門では、商品群及び地域の組織や事業体を合理化する計画を開始することにより、引き続き事業の変革を進めるとともに適応化の範囲を拡大させました。また、アセット・マネジメント部門の専門的能力は、Mieux Vivre Votre Argent 誌の 2019 年 Corbeille アワードにおいて、3 部門で受賞することによって高い評価を受けました。不動産管理部門は、当四半期に活発な営業活動を展開し、とりわけドイツで成果を上げました。

ウェルス & アセット・マネジメント部門の営業収益は、不動産管理部門およびウェルス・マネジメント部門が牽引し、当四半期に 8 億 300 万ユーロに上り、前年同期比 1.5%の増収でした。営業費用は、事業改編計画の効果が発揮され（特にアセット・マネジメント）、当四半期に 6 億 4900 万ユーロで前年同期比 0.8%減少しました（アセット・マネジメントでは、Aladdin IT アウトソーシング・ソリューションを順調に導入したことから、2020 年初頭までに 50 のアプリを漸次廃棄する予定）。これらを受けて、当四半期に 2.3 ポイントの正のジョーズ効果が生み出されました。以上より、国内市場部門、トルコおよび米国からプライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 を配分された後、ウェルス & アセット・マネジメント部門の税引前利益は当四半期に 1 億 7000 万ユーロとなり、前年同期比 18.3%の大幅増益を果たしました。

2019 年度第 3 四半期累計期間（1-9 月）において、保険部門の営業収益は 24 億 1400 万ユーロに上り、前年同期比 12.9%の増収となりました。これには以下の要因が貢献しました：金融市場が 2018 年末以降、急反発したことを受けて、時価評価の対象となる資産の価格が回復し、再評価によるプラス影響がありました；国際展開する業務が順調に成長しました。営業費用は、事業開発を受けて当第 3 四半期累計期間に 11 億 2000 万ユーロとなり、前年同期比 5.6%増加したことから、大幅な正のジョーズ効果が生み出されました。関連会社からの利益貢献は、高水準であった前年同期から減少しま

した。以上から、当第 3 四半期累計期間の税引前利益は 14 億 1200 万ユーロとなり、前年同期と比べて 14.0%の大幅増益を果たしました。

ウェルス&アセット・マネジメント部門の営業収益は、当第 3 四半期累計期間に 23 億 6400 万ユーロとなり、前年同期比 2.4%の減収でした。その背景には、不動産管理部門で特に高水準であった前年同期との比較で不利になったことに加え、2018 年末の市場急落の影響が当年度第 1 四半期にも及んだことがありました（とりわけ、アセット・マネジメントおよびウェルス・マネジメントの顧客による投資活動が低迷）。営業費用は、特にドイツにおけるウェルス・マネジメント業務の開発が負担となった一方で、アセット・マネジメントで費用が減少したことから、当第 3 四半期累計期間に 19 億 2200 万ユーロとなり、前年同期比 0.8%の増加に留まりました。以上より、国内市場部門、トルコおよび米国からプライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 を配分された後、ウェルス&アセット・マネジメント部門の税引前利益は当第 3 四半期累計期間に 4 億 7900 万ユーロとなり、前年同期と比べて 10.5%の減益でした。

*
* *

ホールセールバンキング事業（CIB）

ホールセールバンキング事業（CIB）は、事業改編計画の実施を継続しました。CIB は、定型業務の自動化を加速し、コスト削減策を実施した結果、当四半期に 6200 万ユーロのコスト削減を果たしました。CIB は引き続き特定の顧客層に的を絞った成長を追求しました。その一環として、顧客である運用会社に継続してサービスを提供するために、CIB は、プライムブローカレッジ業務および電子取引による執行に関して、必要な技術移転および人事異動も含め、ドイツ銀行と拘束力のある契約¹を結びました。また CIB は、特定業務の最適化を継続しましたが、ファンドの販売業務を Allfunds に移管するとともに、戦略的に Allfunds 株の 22.5%を取得する契約を締結しました¹。なお、Allfunds は、ウェルステック・プラットフォームを提供する世界的なリーダー企業のひとつです。

CIB の営業収益は、当四半期に 28 億 7300 万ユーロに上り、前年同期比 12.0%の増収を果たしました。CIB の 3 つの部門全てで増収となりましたが、これには顧客リレーションの強化が貢献していました。

グローバルマーケット部門の営業収益は、当四半期に 12 億 9900 万ユーロで前年同期比 14.7%の増収でしたが、新設されたキャピタルマーケット・プラットフォーム²の影響を除くと、増収幅は 17.2%へと拡大します。当部門は、市場シェアの拡大を利用して、顧客業務を順調に伸ばしました。市場リスクを測定するヴァリュエーション・アット・リスク（VaR）は、依然として低水準（2500 万ユーロ）に留まりました。

FICC³業務の営業収益は、当四半期に 9 億 1500 万ユーロに上り、不利な状況に見舞われた前年同期と比べて 34.6%の増収を果たしました（新設されたキャピタルマーケット・プラットフォーム²の影響を除くと+38.7%）。その背景には、クレジットおよび新発債が急増し、また為替およびエマージング市場業務が回復し、さらに、金利業務も好調であったことが挙げられます。FICC は、債券引受業務における確固たる地位を確認しました（ユーロ建て全債券で第 1 位に輝き、国際債券で第 8 位にランクインし、さらにサステナブルボンドで世界第 2 位につきました）。一方、株式およびプライムサービス業務の営業収益は、当四半期に 3 億 8400 万ユーロで前年同期比 15.1%の減収となりました。その背景には、フロー業務が、活気を欠く市

¹ 規制当局の承認を得ることを条件とする

² 法人顧客の資金ニーズに対応するために、2019 年度第 1 四半期に設置された、グローバルマーケット部門とコーポレートバンキング部門の共有プラットフォーム（グローバルマーケット部門の FICC 業務からコーポレートバンキング部門へ、2800 万ユーロの営業収益を当四半期に振替え）

³ Fixed Income, Currencies and Commodities（債券・通貨・コモディティ）

場環境の影響を受けたことがあります。仕組商品業務による証券発行の増加およびプライムサービス業務の若干の伸びが、これを一部補いました。

セキュリティーズ・サービス部門の営業収益は、事業成長を受けて当四半期に 5 億 3500 万ユーロとなり、前年同期比 6.4% の増収でした。カストディ業務の受託資産および管理資産残高は、2018 年 9 月末の水準と比べて 10.2% の急増を果たしました。これにはとりわけ、Janus Henderson からの 1800 億米ドルに上る資産の移管が寄与していました。また、当四半期に取引件数が前年同期比 9.5% 増加しました。当部門の専門的能力は、The Banker 誌によって 'Transaction Bank of the Year for securities services' (セキュリティーズ・サービスにおける年間最優秀トランザクションバンク賞) を授与され、評価されました。

コーポレートバンキング部門の営業収益は、当四半期に 10 億 3900 万ユーロで前年同期比 11.7% の増収となりました (新設されたキャピタルマーケット・プラットフォーム¹の影響を除くと +8.7%)。営業収益は全ての地域で増収となりましたが、とりわけ欧州での非常に好調な営業展開が原動力となりました: 欧州の取引件数は大幅に増加し、また顧客との取引でキャピタルマーケット・プラットフォームを強化しました。融資残高は、当四半期に 1500 億ユーロに上り、前年同期と比べて 7.1%² 増加しました。当部門はシンジケートローンで EMEA³ 地域の第 1 位に輝き、同分野における強固な地位を確認しました。トレードファイナンスでは、当部門は欧州の第 1 位の地位を引き続き強化し、またアジアで初めて第 2 位にランクインしました。一方、預金残高は、当四半期に 1460 億ユーロとなり、前年同期から 12.9%³ 増加しました。当部門はデジタルサービスの開発で以下のように成果を確認しました: 11,000 の法人顧客が Centric プラットフォームを利用しており、1 日当たりの総接続回数は 19,000 回に上っています。当部門の専門的能力は、The Banker 誌によって 'Most Innovative Investment Bank' (最も革新的な投資銀行賞) を授与され、評価されました。

CIB の営業費用は、当四半期に 19 億 7400 万ユーロとなり、前年同期比 4.8% 増加しました。その結果、当四半期に 7.2 ポイントの大幅な正のジョーズ効果が生み出されました。これには費用節減策および事業改編計画が奏功しましたが、とりわけ、共有プラットフォームの強化、エンドツーエンドでデジタル化されたプロセスの実施、オペレーション業務の自動化が貢献しました。

これらを受けて、当四半期の営業総利益は、前年同期比 32.0% 増加して 8 億 9800 万ユーロとなりました。

CIB のリスク費用は、当四半期に 8100 万ユーロの低水準に留まりましたが、純額で 4900 万ユーロの引当金戻入益が計上された前年同期と比べて 1 億 3000 万ユーロ増加しました。なお、当四半期のリスク費用には、特定の大口債権が影響していました。

以上から、CIB の税引前利益は当四半期に 8 億 3400 万ユーロに上り、前年同期比 13.5% の大幅増益となりました。

2019 年度第 3 四半期累計期間 (1-9 月) において、CIB の営業収益は、3 つの業務部門全てで増収となったことから、前年同期比 6.3% 増加して 89 億 8000 万ユーロに上りました。グローバルマーケット部門の営業収益は、42 億 3000 万ユーロで前年同期比 3.8% 増加しましたが、新設されたキャピタルマーケット・プラットフォーム⁴の影響を除くと、増収幅は 5.8% へと

¹ 法人顧客の資金ニーズに対応するために、2019 年度第 1 四半期に設置された、グローバルマーケット部門とコーポレートバンキング部門の共有プラットフォーム (グローバルマーケット部門の FICC 業務からコーポレートバンキング部門へ、2800 万ユーロの営業収益を当四半期に振替え)

² 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除いた、期中平均残高

³ Europe, Middle East, Africa (欧州、中東、アフリカ)

⁴ グローバルマーケット部門の FICC 業務からコーポレートバンキング部門へ、8100 万ユーロの営業収益を当第 3 四半期累計期間に振替え

拡大します。FICC¹の営業収益は、当第3四半期累計期間に27億4300万ユーロとなり、前年同期比23.9%増加しました（新設されたキャピタルマーケット・プラットフォーム²の影響を除くと+27.5%）。当第3四半期累計期間には、全てのセグメントで好成績を上げましたが、とりわけ為替業務が著しい回復を遂げました。株式およびプライムサービス業務の営業収益は、当第3四半期累計期間に14億8700万ユーロとなり、高水準で推移した前年同期から20.1%減少しました。当業務部門は、2018年度第4四半期に相場の極端な変動の影響を被りましたが、その後、取引が持ち直したものの、2019年初は緩やかな回復に過ぎませんでした。セキュリティーズ・サービス部門の営業収益は、当第3四半期累計期間に16億4700万ユーロで前年同期比6.1%の増収でした。これにはとりわけ、取引の増加、新規マンドートの効果、および特定取引からの高収益が寄与しました。コーポレートバンキング部門の営業収益は、当第3四半期累計期間に31億200万ユーロに上り、前年同期比9.9%増加しました（新設されたキャピタルマーケット・プラットフォーム²の影響を除くと+7.1%）。これには欧州での好調な営業展開が原動力となっており、またトランザクションバンキング（キャッシュマネジメント、トレードファイナンスなど）が引き続き伸びたことも貢献しました。

CIBの営業費用は、当第3四半期累計期間に64億3400万ユーロとなり、前年同期比3.0%増加しました。取引の増加がコスト増要因となった一方で、費用節減策および事業改編計画の効果（当第3四半期累計期間は1億8200万ユーロ）も反映されました。その結果、当第3四半期累計期間に3.3ポイントの正のジョーズ効果が生み出されました。

これらを受けて、CIBの営業総利益は、当第3四半期累計期間に25億4600万ユーロに上り、前年同期と比べて15.4%増加しました。

CIBのリスク費用は依然として低水準で、当第3四半期累計期間に1億3800万ユーロとなりました。なお、前年同期には多額の戻入益があったため、純額で5700万ユーロの引当金戻入益が計上されました。

以上から、CIBの税引前利益は当第3四半期累計期間に24億600万ユーロに上り、前年同期比5.1%の増益となりました。

*
* *

コーポレート・センター

コーポレート・センターの営業収益は、当四半期に2700万ユーロとなりました。これに対し、ファースト・ハワイアン・バンクから2018年7月分の収益貢献³（5500万ユーロ）があった前年同期には、900万ユーロの営業収益が計上されました。

営業費用は、当四半期に3億6300万ユーロとなり、これに対し前年同期は4億1500万ユーロでした。当四半期の営業費用には、一時項目として以下が含まれていました：事業改編計画の費用が1億7800万ユーロ（前年同期は2億4800万ユーロ）；買収に関わる事業再編費用⁴が4800万ユーロ（前年同期は1900万ユーロ）；追加的な事業適応策⁵（早期退職制度）に関わる費用が3000万ユーロ（前年同期はゼロ）。なお、前年同期の営業費用には、ファースト・ハワイアン・バンクの営業費用（2700万ユーロ）が含まれていました。

¹ Fixed Income, Currencies and Commodities（債券・通貨・コモディティ）

² グローバルマーケット部門のFICC業務からコーポレートバンキング部門へ、8100万ユーロの営業収益を当第3四半期累計期間に振替え

³ ファースト・ハワイアン・バンク（FHB）は2018年8月1日をもって連結の範囲から除外されている。FHBによるグループ損益計算書への貢献は、2018年1月1日をスタート日とした遡及的修正により、コーポレート・センターへ振替えられている（2019年3月29日公表の四半期業績資料を参照のこと）

⁴ 特にRaiffeisen Bank PolskaおよびOpel Bank SAの統合に関わる事業再編費用が影響

⁵ BNL bcおよびアセット・マネジメント部門

当四半期のリスク費用は、前年同期と同様に僅少額でした。

営業外項目は、当四半期に 2000 万ユーロの利益となり、これに対し前年同期は 2 億 8500 万ユーロの利益が計上されました。なお、前年同期の営業外項目には、ファースト・ハワイアン・バンク株 30.3%を売却したことによる譲渡益 2 億 8600 万ユーロが含まれていました。

以上から、コーポレート・センターの税引前利益は当四半期に -2 億 9900 万ユーロとなり、これに対し前年同期は -1 億 100 万ユーロでした。

2019 年度第 3 四半期累計期間（1-9 月）において、コーポレート・センターの営業収益は 1 億 1700 万ユーロとなりました。これに対し、ファースト・ハワイアン・バンクからの収益貢献（3 億 5900 万ユーロ）¹を含んでいた前年同期には、4 億 8000 万ユーロの営業収益が計上されました。営業費用は、当第 3 四半期累計期間に 11 億 9900 万ユーロとなり、これに対し前年同期は 13 億 6000 万ユーロでした。当第 3 四半期累計期間の営業費用には、一時項目として以下が含まれていました：事業改編計画の費用が 5 億 6800 万ユーロ（前年同期は 7 億 2100 万ユーロ）；買取に関わる事業再編費用²が 1 億 4800 万ユーロ（前年同期は 3200 万ユーロ）；追加的な事業適応策³（早期退職制度）に関わる費用が 8100 万ユーロ（前年同期はゼロ）。なお、前年同期の営業費用には、ファースト・ハワイアン・バンク¹の営業費用 1 億 8900 万ユーロが含まれていました。当第 3 四半期累計期間のリスク費用は、純額で 200 万ユーロの戻入益となりました。これに対し、前年同期のリスク費用は、ファースト・ハワイアン・バンクに関わる 1300 万ユーロの引当金繰入額を含めて、純額で 3600 万ユーロの引当金繰入額が計上されました。営業外項目は、当第 3 四半期累計期間に 7 億 2400 万ユーロの利益となりました（前年同期は 4 億 4100 万ユーロの利益）。当第 3 四半期累計期間の営業外項目には、一時項目として以下が含まれていました：インドの SBI Life 株 16.8%を売却したことによる譲渡益、および、残部の 5.2%持分を連結の範囲から除外した影響が合計で +14 億 5000 万ユーロ；のれんの減損損失として -8 億 1800 万ユーロ。なお、前年同期の営業外項目には、建物の売却による譲渡益 +1 億 100 万ユーロに加え、ファースト・ハワイアン・バンク株 30.3%の売却による譲渡益 +2 億 8600 万ユーロが含まれていました。以上から、コーポレート・センターの税引前利益は、当第 3 四半期累計期間に -2 億 9100 万ユーロとなり、これに対し前年同期は -4 億 1600 万ユーロでした。

*
* *

財務構造

グループのバランスシートは極めて盤石です。

普通株式等 Tier 1 比率は 2019 年 9 月末現在で 12.0%となり、2019 年 6 月末の水準から 10bp 上昇しました。これには主に、配当性向 50%を前提とした現金配当を考慮後の、当四半期純利益が貢献していました（+10bp）。為替レート変動の影響を除くリスク加重資産は、当四半期に横ばいとなりました。これには、2019 年度上半期中に実行できなかった特定の取引を含めて、当四半期に実施した証券化がより大きく影響しました。その他の要因が普通株式等 Tier 1 比率に及ぼした影響は、全体として軽微でした。

¹ ファースト・ハワイアン・バンク（FHB）は 2018 年 8 月 1 日をもって連結の範囲から除外されている。FHB によるグループ損益計算書への貢献は、2018 年 1 月 1 日をスタート日とした遡及的修正により、コーポレート・センターへ振替えられている（2019 年 3 月 29 日公表の四半期業績資料を参照のこと）

² 特に Raiffeisen Bank Polska および Opel Bank SA の統合に関わる事業再編費用が影響

³ BNL bc およびアセット・マネジメント部門

レバレッジ比率¹は2019年9月末現在で4.0%となりました。

グループの即時利用可能な余剰資金は、2019年9月末現在で3510億ユーロに上りました。これは短期資金調達との関係で、1年超の余裕資金があることを意味します。

*
* *

以上の決算内容について、ジャン＝ローラン・ボナフェ最高経営責任者は次のように述べています。

「BNPパリバは、2019年度第3四半期に19億ユーロの株主帰属純利益を上げました。営業収益は、事業成長を受けて3事業部門全てで増収を果たしました。営業費用は、事業改編計画の効果が発揮され確かなコスト抑制が利いたことから、当四半期に全ての事業部門で正のジョーズ効果が生み出されました。リスク費用は依然として低水準に留まりました。」

普通株式等 Tier 1 比率は12.0%へと上昇し、グループのバランスシートが盤石であることを証明しています。

グループは顧客のために導入した新たなデジタルサービスで成功を収めており、また、意欲的な社会的責任方針を積極的に実施しています。

このような好業績を収めるために惜しみない努力を続けた、グループの全従業員に感謝の意を表します。」

¹ 2014年10月10日付けの欧州委員会（EC）委任法令に基づき算定された比率

連結損益計算書

	3Q19	3Q18	3Q19 / 3Q18	2Q19	3Q19 / 2Q19	9M19	9M18	9M19 / 9M18
(単位：百万ユーロ)								
グループ								
営業収益	10,896	10,352	+5.3%	11,224	-2.9%	33,264	32,356	+2.8%
営業費用および減価償却費	-7,421	-7,277	+2.0%	-7,435	-0.2%	-23,305	-22,905	+1.7%
営業総利益	3,475	3,075	+13.0%	3,789	-8.3%	9,959	9,451	+5.4%
リスク費用	-847	-686	+23.5%	-621	+36.4%	-2,237	-1,868	+19.8%
営業利益	2,628	2,389	+10.0%	3,168	-17.0%	7,722	7,583	+1.8%
持分法適用会社投資損益	143	139	+2.9%	180	-20.6%	457	433	+5.5%
その他の営業外項目	34	288	-88.2%	29	+17.0%	686	509	+34.8%
営業外項目	177	427	-58.6%	209	-15.3%	1,143	942	+21.3%
税引前利益	2,805	2,816	-0.4%	3,377	-16.9%	8,865	8,525	+4.0%
法人税	-767	-583	+31.6%	-795	-3.5%	-2,229	-2,059	+8.3%
少数株主帰属純利益	-100	-109	-8.3%	-114	-12.3%	-312	-382	-18.3%
株主帰属純利益	1,938	2,124	-8.8%	2,468	-21.5%	6,324	6,084	+3.9%
コスト/インカム率	68.1%	70.3%	-2.2 pt	66.2%	+1.9 pt	70.1%	70.8%	-0.7 pt

BNP パリバの2019 年度第3 四半期に関わる財務情報の開示は、本プレスリリースに含まれています。

登録書類を含む法令上要求される全ての開示情報は、<http://invest.bnpparibas.com> の「Results (業績)」セクションからオンラインで入手可能であり、フランス通貨金融法典 L.451-1-2 条およびフランス金融市場庁 (Autorité des Marchés Financiers) の一般規則第 222-1 条以降の規定に従い、BNP パリバにより公表されています。

2019 年度第 3 四半期 – コア事業別業績

	国内市場部門	国際金融 サービス部門	ホールセール バンキング事業	事業部門 合計	コーポレー ト・ センター	グループ 合計
<i>(単位：百万ユーロ)</i>						
営業収益	3,748	4,248	2,873	10,869	27	10,896
対前年同期比	+0.3%	+5.1%	+12.0%	+5.1%	n.s.	+5.3%
対前四半期比	-1.6%	-0.3%	-7.3%	-2.7%	-49.6%	-2.9%
営業費用および減価償却費	-2,539	-2,545	-1,974	-7,058	-363	-7,421
対前年同期比	+0.3%	+4.0%	+4.8%	+2.9%	-12.5%	+2.0%
対前四半期比	+3.9%	-0.6%	-1.1%	+0.9%	-16.9%	-0.2%
営業総利益	1,209	1,704	898	3,811	-336	3,475
対前年同期比	+0.3%	+6.8%	+32.0%	+9.5%	-17.1%	+13.0%
対前四半期比	-11.5%	+0.0%	-18.5%	-8.7%	-12.3%	-8.3%
リスク費用	-246	-518	-81	-846	-1	-847
対前年同期比	-1.6%	+6.6%	n.s.	+23.1%	n.s.	+23.5%
対前四半期比	+15.5%	+32.8%	n.s.	+34.8%	n.s.	+36.4%
営業利益	963	1,186	817	2,965	-337	2,628
対前年同期比	+0.8%	+6.9%	+12.0%	+6.1%	-16.6%	+10.0%
対前四半期比	-16.6%	-9.7%	-24.2%	-16.3%	-10.5%	-17.0%
持分法適用会社投資損益	1	118	5	124	19	143
その他の営業外項目	2	1	11	14	20	34
税引前利益	966	1,305	834	3,104	-299	2,805
対前年同期比	+0.6%	+6.7%	+13.5%	+6.4%	n.s.	-0.4%
対前四半期比	-16.0%	-9.5%	-21.2%	-14.9%	+10.0%	-16.9%

	国内市場部門	国際金融 サービス部門	ホールセール バンキング事 業	事業部門 合計	コーポレー ト・ センタ	グループ 合計
<i>(単位：百万ユーロ)</i>						
営業収益	3,748	4,248	2,873	10,869	27	10,896
前年同期	3,737	4,041	2,565	10,343	9	10,352
前四半期	3,810	4,262	3,099	11,171	53	11,224
営業費用および減価償却費	-2,539	-2,545	-1,974	-7,058	-363	-7,421
前年同期	-2,531	-2,446	-1,884	-6,862	-415	-7,277
前四半期	-2,443	-2,559	-1,997	-6,999	-436	-7,435
営業総利益	1,209	1,704	898	3,811	-336	3,475
前年同期	1,205	1,595	680	3,481	-405	3,075
前四半期	1,367	1,703	1,102	4,172	-383	3,789
リスク費用	-246	-518	-81	-846	-1	-847
前年同期	-251	-486	49	-687	1	-686
前四半期	-213	-390	-24	-628	7	-621
営業利益	963	1,186	817	2,965	-337	2,628
前年同期	955	1,109	730	2,793	-404	2,389
前四半期	1,154	1,313	1,078	3,545	-377	3,168
持分法適用会社投資損益	1	118	5	124	19	143
前年同期	5	111	4	121	18	139
前四半期	2	149	5	156	24	180
その他の営業外項目	2	1	11	14	20	34
前年同期	0	3	0	3	285	288
前四半期	-6	-21	-25	-52	81	29
税引前利益	966	1,305	834	3,104	-299	2,805
前年同期	960	1,223	734	2,917	-101	2,816

	前四半期	1,149	1,442	1,058	3,649	-272	3,377
法人税							-767
少数株主帰属純利益							-100
株主帰属純利益							1,938

2019年1-9月期 – コア事業別業績

		国内市場部門	国際金融 サービス部門	ホールセール バンキング事業	事業部門 合計	コーポレー ト・...	グループ 合計
<i>(単位：百万ユーロ)</i>							
営業収益		11,375	12,792	8,980	33,147	117	33,264
	対前年同期比	+0.2%	+5.9%	+6.3%	+4.0%	-75.7%	+2.8%
営業費用および減価償却費		-7,880	-7,792	-6,434	-22,106	-1,199	-23,305
	対前年同期比	+0.1%	+4.9%	+3.0%	+2.6%	-11.8%	+1.7%
営業総利益		3,495	5,001	2,546	11,042	-1,083	9,959
	対前年同期比	+0.6%	+7.6%	+15.4%	+6.9%	+23.0%	+5.4%
リスク費用		-764	-1,337	-138	-2,239	2	-2,237
	対前年同期比	+5.5%	+14.7%	n.s.	+22.2%	n.s.	+19.8%
営業利益		2,731	3,664	2,408	8,803	-1,081	7,722
	対前年同期比	-0.8%	+5.2%	+6.4%	+3.6%	+18.0%	+1.8%
持分法適用会社投資損益		-3	381	12	390	67	457
その他の営業外項目		-3	-20	-15	-38	724	686
税引前利益		2,725	4,025	2,406	9,156	-291	8,865
	対前年同期比	-0.9%	+3.2%	+5.1%	+2.4%	-30.1%	+4.0%
法人税							-2,229
少数株主帰属純利益							-312
株主帰属純利益							6,324

連結四半期業績の推移

(単位：百万ユーロ)	3Q19	2Q19	1Q19	4Q18	3Q18	2Q18	1Q18
グループ							
営業収益	10,896	11,224	11,144	10,160	10,352	11,206	10,798
営業費用および減価償却費	-7,421	-7,435	-8,449	-7,678	-7,277	-7,368	-8,260
営業総利益	3,475	3,789	2,695	2,482	3,075	3,838	2,538
リスク費用	-847	-621	-769	-896	-686	-567	-615
営業利益	2,628	3,168	1,926	1,586	2,389	3,271	1,923
持分法適用会社投資損益	143	180	134	195	139	132	162
その他の営業外項目	34	29	623	-98	288	50	171
税引前利益	2,805	3,377	2,683	1,683	2,816	3,453	2,256
法人税	-767	-795	-667	-144	-583	-918	-558
少数株主帰属純利益	-100	-114	-98	-97	-109	-142	-131
株主帰属純利益	1,938	2,468	1,918	1,442	2,124	2,393	1,567
コスト/インカム率	68.1%	66.2%	75.8%	75.6%	70.3%	65.7%	76.5%



(単位：百万ユーロ)	3Q19	2Q19	1Q19	4Q18	3Q18	2Q18	1Q18
リテール・バンキング事業およびサービス事業 PEL/CEL の影響を除く							
営業収益	8,006	8,045	8,096	7,767	7,774	7,915	7,731
営業費用および減価償却費	-5,084	-5,002	-5,586	-5,154	-4,978	-4,907	-5,416
営業総利益	2,922	3,042	2,510	2,613	2,796	3,008	2,315
リスク費用	-765	-604	-733	-722	-736	-526	-627
営業利益	2,158	2,439	1,777	1,891	2,060	2,482	1,688
持分法適用会社投資損益	119	151	108	131	117	107	132
その他の営業外項目	3	-27	1	-4	3	0	59
税引前利益	2,280	2,563	1,886	2,018	2,179	2,589	1,879
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	54.7	54.6	54.3	52.5	52.1	52.0	51.8
リテール・バンキング事業およびサービス事業							
営業収益	7,997	8,072	8,099	7,782	7,778	7,916	7,733
営業費用および減価償却費	-5,084	-5,002	-5,586	-5,154	-4,978	-4,907	-5,416
営業総利益	2,913	3,070	2,513	2,628	2,800	3,009	2,316
リスク費用	-765	-604	-733	-722	-736	-526	-627
営業利益	2,148	2,467	1,780	1,907	2,064	2,482	1,689
持分法適用会社投資損益	119	151	108	131	117	107	132
その他の営業外項目	3	-27	1	-4	3	0	59
税引前利益	2,270	2,591	1,889	2,033	2,183	2,589	1,880
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	54.7	54.6	54.3	52.5	52.1	52.0	51.8
国内市場部門（フランス、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクのプライベート・バンキングの100%を含む）* PEL/CEL の影響を除く							
営業収益	3,892	3,925	3,961	3,903	3,874	3,938	3,969
営業費用および減価償却費	-2,607	-2,516	-2,983	-2,603	-2,605	-2,528	-2,971
営業総利益	1,285	1,408	978	1,300	1,269	1,411	998
リスク費用	-245	-214	-307	-322	-251	-204	-270
営業利益	1,040	1,194	671	978	1,018	1,206	727
持分法適用会社投資損益	1	2	-6	0	5	-3	-6
その他の営業外項目	2	-6	1	-2	0	1	1
税引前利益	1,043	1,190	666	975	1,024	1,205	723
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-67	-68	-58	-59	-67	-73	-65
国内市場部門税引前利益	975	1,122	608	917	956	1,132	658
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	25.7	25.7	25.5	25.2	25.0	24.7	24.4
国内市場部門（フランス、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクのプライベート・バンキングの2/3を含む）							
営業収益	3,748	3,810	3,816	3,783	3,737	3,792	3,820
営業費用および減価償却費	-2,539	-2,443	-2,897	-2,528	-2,531	-2,454	-2,888
営業総利益	1,209	1,367	919	1,255	1,205	1,338	933
リスク費用	-246	-213	-305	-320	-251	-205	-269
営業利益	963	1,154	615	935	955	1,133	664
持分法適用会社投資損益	1	2	-6	0	5	-3	-6
その他の営業外項目	2	-6	1	-2	0	1	1
税引前利益	966	1,149	610	932	960	1,132	659
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	25.7	25.7	25.5	25.2	25.0	24.7	24.4

* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む



(単位: 百万ユーロ)	3Q19	2Q19	1Q19	4Q18	3Q18	2Q18	1Q18
フランス国内リテール・バンキング事業 (フランス国内プライベート・バンキングの 100%を含む) *							
営業収益	1,558	1,624	1,597	1,568	1,575	1,593	1,595
うち受取利息純額	891	916	915	902	900	875	891
うち手数料	667	708	682	666	676	718	704
営業費用および減価償却費	-1,163	-1,102	-1,186	-1,149	-1,168	-1,104	-1,189
営業総利益	396	522	412	419	407	489	406
リスク費用	-75	-83	-72	-85	-90	-54	-59
営業利益	320	440	340	334	317	435	347
営業外項目	0	0	1	-3	0	1	0
税引前利益	320	440	340	332	318	437	346
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-40	-37	-34	-32	-38	-39	-39
フランス国内リテール・バンキング税引前利益	281	402	306	299	280	397	307
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	10.0	9.9	9.8	9.6	9.5	9.3	9.2
(単位: 百万ユーロ)	3Q19	2Q19	1Q19	4Q18	3Q18	2Q18	1Q18
フランス国内リテール・バンキング事業 (フランス国内プライベート・バンキングの 100%を含む) * PEL/CEL の影響を除く							
営業収益	1,568	1,596	1,595	1,553	1,571	1,593	1,594
うち受取利息純額	907	889	912	887	896	875	890
うち手数料	667	708	682	666	676	718	704
営業費用および減価償却費	-1,163	-1,102	-1,186	-1,149	-1,168	-1,104	-1,189
営業総利益	405	495	409	404	403	489	405
リスク費用	-75	-83	-72	-85	-90	-54	-59
営業利益	330	412	337	319	313	435	346
営業外項目	0	0	1	-3	0	1	0
税引前利益	330	412	338	317	314	436	345
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-40	-37	-34	-32	-38	-39	-39
フランス国内リテール・バンキング税引前利益	290	374	304	284	276	397	306
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	10.0	9.9	9.8	9.6	9.5	9.3	9.2
(単位: 百万ユーロ)	3Q19	2Q19	1Q19	4Q18	3Q18	2Q18	1Q18
フランス国内リテール・バンキング事業 (フランス国内プライベート・バンキングの 2/3 を含む)							
営業収益	1,490	1,549	1,522	1,498	1,502	1,517	1,517
営業費用および減価償却費	-1,133	-1,065	-1,147	-1,112	-1,133	-1,068	-1,151
営業総利益	357	484	376	386	369	449	367
リスク費用	-77	-81	-70	-84	-90	-53	-59
営業利益	281	402	305	302	280	396	307
営業外項目	0	0	1	-3	0	1	0
税引前利益	281	402	306	299	280	397	307
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	10.0	9.9	9.8	9.6	9.5	9.3	9.2

* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の 100%を含む

** PEL/CEL に係る引当金に関する留意事項: 当該引当金は、フランス国内リテール・バンキング事業収益において計上されているが、住宅財形貯蓄制度 (Plans Epargne Logement: PEL) および住宅財形貯蓄口座 (Comptes Epargne Logement: CEL) から全存続期間にわたり生じるリスクを考慮している

(単位: 百万ユーロ)	3Q19	2Q19	1Q19	4Q18	3Q18	2Q18	1Q18
PEL-CEL の影響	-10	28	2	15	4	0	1

(単位：百万ユーロ)

	3Q19	2Q19	1Q19	4Q18	3Q18	2Q18	1Q18
BNL バンカ・コムルシアレ（イタリア国内プライベート・バンキングの 100%を含む）*							
営業収益	663	684	675	722	660	698	713
営業費用および減価償却費	-446	-433	-470	-440	-439	-438	-480
営業総利益	217	251	205	282	221	259	233
リスク費用	-109	-107	-165	-164	-131	-127	-169
営業利益	108	144	40	117	90	132	63
営業外項目	0	0	0	-2	0	-1	0
税引前利益	108	144	40	116	89	130	63
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-10	-11	-10	-11	-10	-10	-12
BNL バンカ・コムルシアレ税引前利益	98	133	30	105	80	120	51
配賦資本（十億ユーロ、年初末）	5.3	5.3	5.3	5.5	5.5	5.5	5.4

(単位：百万ユーロ)

	3Q19	2Q19	1Q19	4Q18	3Q18	2Q18	1Q18
BNL バンカ・コムルシアレ（イタリア国内プライベート・バンキングの 2/3 を含む）							
営業収益	641	663	654	700	638	675	691
営業費用および減価償却費	-434	-422	-460	-429	-427	-427	-470
営業総利益	207	241	195	272	211	248	221
リスク費用	-109	-108	-164	-165	-131	-127	-170
営業利益	98	133	30	107	80	122	51
営業外項目	0	0	0	-2	0	-1	0
税引前利益	98	133	30	105	80	120	51
配賦資本（十億ユーロ、年初末）	5.3	5.3	5.3	5.5	5.5	5.5	5.4

(単位：百万ユーロ)

	3Q19	2Q19	1Q19	4Q18	3Q18	2Q18	1Q18
ベルギー国内リテール・バンキング事業（ベルギー国内プライベート・バンキングの 100%を含む）*							
営業収益	853	878	915	857	887	917	934
営業費用および減価償却費	-541	-535	-844	-571	-563	-552	-835
営業総利益	312	342	71	286	324	365	99
リスク費用	-20	3	-34	-43	4	2	-6
営業利益	292	345	37	243	328	367	93
持分法適用会社投資損益	5	5	-3	4	8	1	-3
その他の営業外項目	1	-6	0	7	0	0	1
税引前利益	298	344	35	253	336	368	92
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-17	-19	-14	-15	-19	-23	-13
ベルギー国内リテール・バンキング税引前利益	281	325	21	238	317	345	79
配賦資本（十億ユーロ、年初末）	5.8	5.9	5.8	5.7	5.7	5.6	5.6

(単位：百万ユーロ)

	3Q19	2Q19	1Q19	4Q18	3Q18	2Q18	1Q18
ベルギー国内リテール・バンキング事業（ベルギー国内プライベート・バンキングの 2/3 を含む）							
営業収益	813	836	868	817	845	872	887
営業費用および減価償却費	-519	-512	-811	-547	-539	-529	-803
営業総利益	295	323	57	270	305	344	85
リスク費用	-20	3	-33	-42	4	0	-4
営業利益	275	326	24	228	309	344	80
持分法適用会社投資損益	5	5	-3	4	8	1	-3
その他の営業外項目	1	-6	0	7	0	0	1
税引前利益	281	325	21	238	317	345	79
配賦資本（十億ユーロ、年初末）	5.8	5.9	5.8	5.7	5.7	5.6	5.6

* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の 100%を含む

(単位：百万ユーロ)

	3Q19	2Q19	1Q19	4Q18	3Q18	2Q18	1Q18
ルクセンブルクを含むその他国内市場部門（ルクセンブルク国内プライベート・バンキングの100%を含む）*							
営業収益	807	767	776	771	755	731	728
営業費用および減価償却費	-457	-447	-483	-443	-435	-433	-467
営業総利益	351	320	292	328	320	298	261
リスク費用	-41	-27	-37	-29	-33	-25	-36
営業利益	310	293	256	299	287	273	225
持分法適用会社投資損益	-4	-4	-3	-4	-3	-3	-2
その他の営業外項目	1	0	0	-5	0	0	-1
税引前利益	307	290	253	290	284	271	223
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-1	-1	0	-1	-1	-1	-1
その他国内市場部門税引前利益	306	289	253	289	283	270	222
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	4.6	4.6	4.5	4.4	4.3	4.3	4.2

(単位：百万ユーロ)

	3Q19	2Q19	1Q19	4Q18	3Q18	2Q18	1Q18
ルクセンブルクを含むその他国内市場部門（ルクセンブルク国内プライベート・バンキングの2/3を含む）							
営業収益	804	763	772	767	752	728	725
営業費用および減価償却費	-454	-444	-480	-440	-433	-431	-464
営業総利益	350	319	292	327	319	297	260
リスク費用	-41	-27	-37	-29	-33	-25	-36
営業利益	309	292	255	298	286	272	225
持分法適用会社投資損益	-4	-4	-3	-4	-3	-3	-2
その他の営業外項目	1	0	0	-5	0	0	-1
税引前利益	306	289	253	289	283	270	222
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	4.6	4.6	4.5	4.4	4.3	4.3	4.2

* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む



(単位:百万ユーロ)	3Q19	2Q19	1Q19	4Q18	3Q18	2Q18	1Q18
国際金融サービス部門							
営業収益	4,248	4,262	4,282	3,999	4,041	4,123	3,912
営業費用および減価償却費	-2,545	-2,559	-2,688	-2,626	-2,446	-2,453	-2,529
営業総利益	1,704	1,703	1,594	1,373	1,595	1,671	1,383
リスク費用	-518	-390	-428	-401	-486	-322	-358
営業利益	1,186	1,313	1,165	972	1,109	1,349	1,026
持分法適用会社投資損益	118	149	113	131	111	109	137
その他の営業外項目	1	-21	0	-2	3	-1	58
税引前利益	1,305	1,442	1,279	1,101	1,223	1,457	1,221
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	29.1	28.9	28.8	27.3	27.1	27.3	27.3
パーソナル・ファイナンス							
営業収益	1,444	1,440	1,427	1,411	1,387	1,381	1,354
営業費用および減価償却費	-664	-702	-770	-728	-639	-672	-725
営業総利益	781	738	656	682	748	709	629
リスク費用	-366	-289	-329	-299	-345	-265	-276
営業利益	415	449	327	383	403	443	353
持分法適用会社投資損益	19	17	13	17	21	8	15
その他の営業外項目	0	-13	0	-1	0	-2	4
税引前利益	434	454	340	400	424	450	373
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	8.0	7.9	7.8	7.3	7.2	7.1	7.0
欧州・地中海沿岸諸国部門 (トルコ国内プライベート・バンキングの100%を含む) *							
営業収益	657	674	665	600	562	614	581
営業費用および減価償却費	-439	-445	-456	-405	-381	-402	-416
営業総利益	218	230	210	195	181	212	165
リスク費用	-112	-97	-77	-78	-105	-55	-70
営業利益	107	132	133	117	76	157	96
持分法適用会社投資損益	44	66	53	60	43	43	41
その他の営業外項目	-1	0	0	-1	0	-1	54
税引前利益	150	198	186	176	119	199	191
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-1	-1	-1	0	-1	-1	-1
欧州・地中海沿岸諸国部門税引前利益	150	197	185	176	118	199	191
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	5.3	5.3	5.3	4.8	4.8	4.8	4.8
欧州・地中海沿岸諸国部門 (トルコ国内プライベート・バンキングの2/3を含む)							
営業収益	655	672	663	599	561	612	579
営業費用および減価償却費	-438	-444	-455	-404	-380	-401	-415
営業総利益	217	228	209	195	180	211	164
リスク費用	-111	-97	-77	-78	-105	-55	-70
営業利益	106	131	132	117	75	156	95
持分法適用会社投資損益	44	66	53	60	43	43	41
その他の営業外項目	-1	0	0	-1	0	-1	54
税引前利益	150	197	185	176	118	199	191
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	5.3	5.3	5.3	4.8	4.8	4.8	4.8

* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む



(単位：百万ユーロ)	3Q19	2Q19	1Q19	4Q18	3Q18	2Q18	1Q18
バンクウェスト（米国プライベート・バンキングの100%を含む）*							
営業収益	601	593	569	599	578	576	535
営業費用および減価償却費	-433	-431	-442	-431	-430	-406	-415
営業総利益	168	162	127	169	148	170	120
リスク費用	-43	-2	-18	-22	-35	0	-12
営業利益	125	160	109	146	113	169	108
持分法適用会社投資損益	0	0	0	0	0	0	0
その他の営業外項目	1	1	0	0	2	0	0
税引前利益	126	161	109	146	116	169	108
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-7	-7	-8	-7	-8	-7	-6
バンクウェスト税引前利益	119	153	101	139	108	162	102
配賦資本（十億ユーロ、年初末）	5.4	5.3	5.3	4.9	4.8	5.0	4.9
(単位：百万ユーロ)	3Q19	2Q19	1Q19	4Q18	3Q18	2Q18	1Q18
バンクウェスト（米国プライベート・バンキングの2/3を含む）							
営業収益	585	576	553	581	562	561	522
営業費用および減価償却費	-423	-421	-433	-420	-422	-398	-407
営業総利益	161	155	119	162	140	163	115
リスク費用	-43	-2	-18	-22	-35	0	-12
営業利益	118	152	101	139	106	162	102
営業外項目	1	1	0	0	2	0	0
税引前利益	119	153	101	139	108	162	102
配賦資本（十億ユーロ、年初末）	5.4	5.3	5.3	4.9	4.8	5.0	4.9
(単位：百万ユーロ)	3Q19	2Q19	1Q19	4Q18	3Q18	2Q18	1Q18
保険部門							
営業収益	761	779	874	542	741	735	661
営業費用および減価償却費	-370	-360	-389	-346	-351	-342	-367
営業総利益	390	419	484	196	390	393	294
リスク費用	-2	1	-2	2	0	1	0
営業利益	389	420	482	198	390	394	294
持分法適用会社投資損益	43	57	37	43	38	46	75
その他の営業外項目	0	-16	0	0	1	0	0
税引前利益	432	461	520	241	429	440	369
配賦資本（十億ユーロ、年初末）	8.4	8.3	8.4	8.4	8.4	8.5	8.7
(単位：百万ユーロ)	3Q19	2Q19	1Q19	4Q18	3Q18	2Q18	1Q18
ウェルス&アセット・マネジメント部門							
営業収益	803	795	766	866	791	834	795
営業費用および減価償却費	-649	-632	-641	-728	-654	-639	-614
営業総利益	154	163	125	138	137	195	181
リスク費用	4	-2	-2	-3	-1	-2	0
営業利益	157	161	123	134	136	193	181
持分法適用会社投資損益	12	10	10	11	8	12	5
その他の営業外項目	0	7	0	0	-1	1	0
税引前利益	170	177	132	146	143	206	187
配賦資本（十億ユーロ、年初末）	2.1	2.1	2.0	1.9	1.9	1.9	1.9

* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む



(単位：百万ユーロ)	3Q19	2Q19	1Q19	4Q18	3Q18	2Q18	1Q18
ホールセールバンキング事業							
営業収益	2,873	3,099	3,008	2,379	2,565	2,979	2,906
営業費用および減価償却費	-1,974	-1,997	-2,463	-1,919	-1,884	-1,970	-2,389
営業総利益	898	1,102	545	460	680	1,009	517
リスク費用	-81	-24	-32	-100	49	-23	31
営業利益	817	1,078	513	359	730	986	548
持分法適用会社投資損益	5	5	2	39	4	7	9
その他の営業外項目	11	-25	-2	-6	0	3	2
税引前利益	834	1,058	514	393	734	996	558
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	21.6	21.3	20.7	20.8	20.7	20.3	19.9
コーポレートバンキング部門							
営業収益	1,039	1,094	969	1,102	930	999	892
営業費用および減価償却費	-600	-607	-724	-622	-597	-591	-683
営業総利益	440	487	245	480	333	409	209
リスク費用	-88	-21	-35	-91	46	12	1
営業利益	352	467	210	389	379	421	210
営業外項目	4	3	3	36	5	7	9
税引前利益	356	470	213	424	384	428	219
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	12.5	12.4	12.2	12.2	12.1	12.0	11.9
グローバルマーケット部門							
営業収益	1,299	1,409	1,523	650	1,132	1,447	1,498
うち FICC	915	793	1,035	505	680	729	805
うち株式およびプライムサービス	384	615	488	145	452	718	692
営業費用および減価償却費	-926	-913	-1,276	-859	-848	-955	-1,275
営業総利益	373	496	248	-209	284	492	223
リスク費用	4	-6	3	-13	3	-37	28
営業利益	377	491	251	-222	287	455	251
持分法適用会社投資損益	1	1	0	1	0	1	1
その他の営業外項目	9	-25	1	-3	0	1	0
税引前利益	387	467	252	-225	287	457	252
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	8.1	8.0	7.7	7.8	7.7	7.4	7.1
セキュリティーズ・サービス部門							
営業収益	535	596	516	627	503	532	517
営業費用および減価償却費	-449	-477	-463	-438	-439	-424	-431
営業総利益	86	119	53	189	63	108	86
リスク費用	2	2	-1	4	0	3	1
営業利益	88	121	52	193	63	110	87
営業外項目	2	0	-3	0	0	1	0
税引前利益	91	121	50	193	63	111	86
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	0.9	0.9	0.8	0.9	0.9	0.9	0.8



(単位：百万ユーロ)	3Q19	2Q19	1Q19	4Q18	3Q18	2Q18	1Q18
コーポレート・センター							
営業収益	27	53	37	-1	9	312	159
営業費用および減価償却費	-363	-436	-400	-605	-415	-491	-454
うち事業改編、再編および適応費用	-256	-336	-206	-481	-267	-275	-211
営業総利益	-336	-383	-363	-606	-405	-179	-295
リスク費用	-1	7	-4	-74	1	-18	-19
営業利益	-337	-377	-367	-680	-404	-197	-314
持分法適用会社投資損益	19	24	24	25	18	19	22
その他の営業外項目	20	81	623	-88	285	46	110
税引前利益	-299	-272	280	-743	-101	-132	-183

連結貸借対照表- 2019年9月30日現在

(単位：百万ユーロ)	2019年9月30日	2018年12月31日
資産		
預金および中央銀行預け金	166,934	185,119
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産		
トレーディング目的有価証券	207,036	121,954
貸出金および売戻契約	374,982	183,716
デリバティブ金融商品	297,716	232,895
ヘッジ目的デリバティブ	18,150	9,810
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産		
負債性金融商品	54,500	53,838
資本性金融商品	2,249	2,151
償却原価で測定する金融資産		
金融機関貸出金および債権	39,177	19,556
顧客貸出金および債権	797,357	765,871
負債性金融商品	100,263	75,073
金利リスクヘッジポートフォリオの再測定による調整	6,025	2,787
保険事業に係る金融商品	257,420	232,308
当期および繰延税金資産	6,921	7,220
未収収益およびその他の資産	132,743	103,346
持分法適用会社投資	5,835	5,772
有形固定資産および投資不動産	31,348	26,652
無形固定資産	3,727	3,783
のれん	7,821	8,487
売却目的で保有する非流動資産	0	498
資産合計	2,510,204	2,040,836
負債		
中央銀行預金	4,887	1,354
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債		
トレーディング目的有価証券	98,004	75,189
預金および買戻契約	391,637	204,039
負債証券	63,868	54,908
デリバティブ金融商品	292,197	225,804
ヘッジ目的デリバティブ	19,138	11,677
償却原価で測定する金融負債		
金融機関預金	110,230	78,915
顧客預金	850,458	796,548
負債証券	172,608	151,451
劣後債	20,528	17,627
金利リスクヘッジポートフォリオの再測定による調整	7,117	2,470
当期および繰延税金負債	2,796	2,255
未払費用およびその他の負債	119,227	89,562
保険会社の責任準備金	235,770	213,691
偶発債務等引当金	10,131	9,620
負債合計	2,398,596	1,935,110
連結資本		
資本金、払込剰余金、および利益剰余金	98,308	93,431
親会社株主帰属当期純利益	6,324	7,526
資本金、払込剰余金、利益剰余金、および親会社株主帰属当期純利益合計	104,632	100,957
資本に直接認識される資産および負債の変動	2,525	510
親会社株主資本	107,157	101,467
少数株主資本	4,451	4,259
連結資本合計	111,608	105,726
負債および連結資本合計	2,510,204	2,040,836

代替的業績指標（Alternative Performance Measures: APM）
フランス金融市場庁（AMF）の一般規則第 223-1 条に基づく開示

代替的業績指標	定義	使用理由
事業部門損益計算書 (P/L) (各事業部門の営業収益、 営業費用、営業総利益、営 業利益、税引前利益の合 計)	国内市場部門、国際金融サービス部門、ホールセールバンキ ング事業の損益計算書の合計 (なお、国内市場部門の損益には、フランス、イタリア、ベルギ ーおよびルクセンブルクのプライベート・バンキングの 2/3 を含む) BNP パリバ・グループ損益計算書 = 事業部門 + コーポレート・センターの損益計算書の合計 グループ全体の損益計算書との関係は 「コア事業別業績」の表で開示	BNP パリバ・グループの本業の業績を示す指標
PEL/CEL の影響を除く 損益計算書の合計 (各事業部門の営業収益、 営業費用、営業総利益、営 業利益、税引前利益の合 計)	PEL/CEL の影響を除く損益計算書の合計 グループの調整後の損益計算書の合計は 「四半期業績の推移」の表で開示	PEL/CEL 口座の全存続期間にわたり発生するリスクに対す る引当金変動を除く、当期の損益計算書の合計を表す指標
プライベート・バンキングの 100%を含むリテール・バンキ ング事業の損益計算書の合計	プライベート・バンキング全体の損益を含む リテール・バンキング事業の損益計算書の合計 グループの調整後の損益計算書の合計は 「四半期業績の推移」の表で開示	リテール・バンキング事業の業績を示す指標であり、 プライベート・バンキングの業績の全部を含む (プライベート・バンキングは、リテール・バンキング(2/3)とウェル ス・マネジメント(1/3)の共同責任のもとに置かれるが、その割 合にもとづきウェルス・マネジメントに損益を配分する前の数 値)
営業費用の推移、 但し IFRIC21 の影響を除く	IFRIC21 に基づく税金および拠出金の影響を排除した営業 費用の推移	IFRIC21 に基づく税金および拠出金は、事業年度に関わる ほぼ全額を第 1 四半期に計上するが、その影響を排除した上 で当事業年度 1-9 月期の営業費用の推移を表す指標
コスト/インカム率	営業費用を営業収益で除した比率	銀行業務における業務の効率性を表す指標
リスク費用÷期首顧客向け融 資残高 (単位：bp)	リスク費用（単位：百万ユーロ）を期首の顧客向け融資残 高で除したもの 詳細な算定方法については、決算資料に添付された 「融資残高に関するリスク費用」で開示	事業別の貸出金残高総額におけるリスクレベルの指標
不良債権カバー率	金融資産（ステージ 3）の引当金と当該資産（ステージ 3） の減損後残高との関係を表す指標。 対象となる資産は、バランスシート上およびオフバランスシートの 債権を含み、受け取った担保と相殺する。顧客向けおよび金 融機関向け債権には、償却原価で測定される負債および資 本を通じて公正価値で測定する有価証券を含む（保険事 業を除く）	不良債権に対する引当の状況を表す指標
一時項目を除く株主帰属純 利益	一時項目を除いて算定された株主帰属純利益 一時項目の詳細については、決算資料に添付された 「主な一時項目」で開示	多額の非経常的項目あるいは本業の業績を反映しない項目 を除外した、BNP パリバ・グループの純利益を表す指標。除外 される項目の主なものに、事業改編および再編費用がある

自己資本利益率 (ROE)	ROE の詳細な算定方法については、決算資料に添付された「株主資本利益率」で開示（分母は株主資本 + 非累積的永久優先株）	BNP パリバ・グループの自己資本の収益力を表す指標
有形自己資本利益率 (ROTE)	ROTE の詳細な算定方法については、決算資料に添付された「株主資本利益率」で開示（分母は株主資本 + 非累積的永久優先株）	BNP パリバ・グループの有形自己資本の収益力を表す指標

比較分析 – 連結範囲の変更および為替レート変動による影響の排除

連結範囲の変更による影響を排除するための方法は、買収、売却など、取引の形態に依る。その計算の根本的な目的は、期間比較可能性を確保することにある。

- 企業を買収または新設した場合、当該企業の業績は、同企業が過年度に未だ買収あるいは設立されていなかった期間に対応する分について、連結範囲の変更による影響を除く当会計年度の期間から排除する。
- 事業売却の場合、当該事業体の業績は、売却以降の期間に対応する過年度の四半期について対称的に排除する。
- 連結の会計処理方法を変更した場合、同一条件の下に調整した四半期業績に対して、2 会計年度（当期および前期）の間で存在した最も低い持分比率を適用する。

為替レート変動による影響を除いた比較分析においては、前年度の四半期（比較対象となる四半期）業績を、当四半期（分析対象となる四半期）の為替レートで修正再表示する。これらの計算は全て、会社の報告通貨を基準に行う。

注：

営業費用： 従業員給与および従業員給付制度に関わる費用、その他経費、有形固定資産の減価償却費、無形固定資産の償却費、および不動産・機械設備を含む固定資産の減損などの総額を指す。本資料全体にわたり、「営業費用」および「費用」は特に区別することなく使われている。

事業部門： 以下の 3 部門から成る：

- **国内市場部門：** フランス国内リテール・バンキング（FRB）、BNL パンカ・コメルシアレ（BNL bc）、ベルギー国内リテール・バンキング（BRB）、その他国内市場部門（アルバル、リーシング・ソリューションズ、個人投資家部門、Nickel、ルクセンブルク国内リテール・バンキング（LRB）を含む）
- **国際金融サービス部門（IFS）：** 欧州・地中海沿岸諸国部門、バンクウエスト、パーソナル・ファイナンス、保険部門、ウェルス & アセット・マネジメント（WAM）を含む。WAM には、アセット・マネジメント、ウェルス・マネジメント、および不動産管理部門が含まれる
- **ホールセールバンキング事業（CIB）：** コーポレートバンキング部門、グローバルマーケット部門、セキュリティーズ・サービス部門を含む

事業成長および確かなコスト抑制.....	2
リテール・バンキング事業およびサービス事業	5
国内市場部門.....	5
国際金融サービス部門（IFS）	10
ホールセールバンキング事業（CIB）	14
コーポレート・センター	16
財務構造.....	17
連結損益計算書	19
2019 年度第 3 四半期 – コア事業別業績	20
2019 年 1-9 月期 – コア事業別業績.....	21
連結四半期業績の推移	22
連結貸借対照表 – 2019 年 9 月 30 日現在.....	31
代替的業績指標（Alternative Performance Measures: APM）	
フランス金融市場庁（AMF）の一般規則第 223-1 条に基づく開示	32

本プレスリリースに含まれる数値は、未監査の数値です。2018 年度に関わる財務諸表は、国際財務報告基準（IFRS）の改訂基準である IFRS 第 9 号「金融商品」に基づき作成されていますが、過年度の数値については、同基準が認めるように、当グループは修正再表示を行わないことにしました。

2019 年 3 月 29 日に、BNP パリバは 2018 年度の四半期決算に関わる修正を発表しました。かかる修正には特に以下の事項が反映されています。(i) 2018 年度第 3 四半期に、コルレス銀行業務を、ホールセールバンキング事業（CIB）のコーポレートバンキング部門から、同じく CIB 内のセキュリティーズ・サービス部門へと移管しました。(ii) 2018 年 10 月 1 日をもって、ファースト・ハワイアン・バンク（FHB）に対する持分を、バンクウエストからコーポレート・センターへ移管しました。これは 2018 年に実施された 43.6% の FHB 株の売却を受けた処置です（FHB 株の残部については 2019 年 1 月 25 日に処分済み）。これらの変更はグループ全体の業績に影響を及ぼすものではなく、IFS（バンクウエスト）、CIB（コーポレートバンキング部門、セキュリティーズ・サービス部門）、およびコーポレート・センターの分析上の構成に影響を及ぼすに留まります。なお、2018 年度四半期業績の数値は、あたかもこれらの変更が 2018 年 1 月 1 日に実施されたかのように反映し修正されています。本プレゼンテーションは、修正された 2018 年度の四半期数値に基づいています。

本プレスリリースには、将来の事象に関する現在の見解および見通しに基づいた予測的な記述が含まれています。予測的な記述には、財務上の予測や見積りおよびその基礎となる仮定、将来の事象、事業活動、商品およびサービスに関連する計画、目標および見通しに関する記述、ならびに将来の業績およびシナジーに関する記述があります。予測的な記述は将来の業績を保証するものではなく、BNP パリバとその子会社および出資先企業にまつわる固有リスク、不確実性および仮定によって左右されるものです。さらには、BNP パリバとその子会社の事業展開、銀行業界のトレンド、将来の設備投資および買収、グローバルもしくは BNP パリバの主要地域市場における経済状況の変化、市場競争ならびに規制といった要因にも左右されます。これらの事象はいずれも不確実なものであり、現在の見通しとは異なる結果と、ひいては現在の見通しとは大きく異なる業績をもたらす可能性があります。実際の業績は、予測的な記述において見積りまたは示唆されたものとは大きく異なる可能性があります。本プレスリリースに含まれるいかなる予測的な記述も本プレスリリース発行日現在の予測であり、BNP パリバは、新たな情報や将来の事象によって、予測的な記述を公に修正もしくは更新する責任を負いません。これに関連して、「監督上の検証・評価プロセス（Supervisory Review and Evaluation Process：SREP）」は欧州中央銀行（ECB）により毎年実施されますが、BNP パリバ・グループが満たすべき所要資本比率は毎年修正される可能性があることに留意が必要です。

本プレスリリースに含まれる BNP パリバ以外の第三者に関する情報もしくは外部の情報源から入手した情報は、その真実たることを独立に確認したものではありません。ここに記載の情報や意見に関して、表示または保証を表現あるいは示唆してはならず、またその公正性、正確性、完全性または正当性に関しては確実なものではありません。BNP パリバもしくはその代表者ともに、いかなる過失に対しても責任を負わず、また本プレスリリースあるいはその内容の使用により生ずる、もしくは本プレスリリースやここに記載の情報や資料に関連して生じる、いかなる損失に対しても責任を負いません。

表中および分析において掲載された数値は四捨五入のため、内訳の合計と総数に若干の差異が生じる場合があります。